(一) 號七十九百六千三第 (明治三十九年九月八日第三種郵便物認可) THE KEIJO NIPPO 大正八年一月五日 日曜日 (年中無休刊)

京城日報

一月五日

發行所 京城太平通一丁目 京城日報社 電話 [illegible]
印刷人 小川三之介

大阪正米 (十一日) [illegible]

下關期米 (四日入電)
四日初會 正米二十四圓 [illegible]

△第一節 兵庫先限二十三圓三十錢 大阪天候晴天前節止七十二錢 兵庫四十錢 又賣物圓はれ三錢引 寄當二十三圓八十一錢との入電にて當地當二十圓二錢より二十圓丁度と押 大納會より六十七錢高中丁度と六錢より二十三圓 し〇一錢先三十一錢より 二十三圓七十一錢と六十錢高に寄付き〇四錢引中 四錢と上伸して引 一錢高 新甫四錢上鞘の二十二十圓〇五錢と三十九錢 △第三節 當限三錢中限三 [illegible] 錢 [illegible] 合三十二錢と大盤を採み 況裡に散會

△新甫發會す 新甫三月限は今四日午前十時立會開始したるが客臘大海鞘の爲め買物多く忽ち四錢上鞘に發會を報じたるが當地は當中上放れ新甫十五錢上鞘の二十圓二十錢を以て發會したるも [illegible] れを報じたり新甫は傾々 [illegible] を辿るべきか

△標準米確定 今四日發會の新甫三月限よりの新標準米は客臘二十九日に至つて確定したり取 [illegible] 二十五錢下位なる [illegible] 物に於て一歩五厘を減じ居るより是を價格十五錢と見積り結局十錢下位の者となるとの事なるが因に正米師側の意見を聞く

△格付發表す [illegible] 月限受渡米の內納會後受渡し結了したる者新米五十一口二萬二千餘圓是が第一回格付は十五錢格上げより三十錢格下に [illegible] 如く二萬二千餘叺約九千石に過ぎず殘部は遂に越年する事となつた大體十二月限は其月の二十納會し年內に可及的受渡しの結了を計るべき筈なるに [illegible] 度者とは一般の希望である

戰國の新年を迎へ帝國の天職を論す (二)

戰局の推移と國際政局の變化 (下)

露國の革命は、佛國革命以來の大革命にして、現戰局と國際政局とに及ぼす影響の大なるは言ふを俟たず。佛國革命は革命的精神を發揮して、佛國の威武を歐洲大陸に輝かすに至りたりと雖も、露國の革命はケレンスキーを生じ、レーニンを生じ、之をして無政府的狀態たらしめたり。國民をして統一無く、軍隊をして闘志無からしめたり。國際的道徳を無視して敵國と休戰し、單獨講和を締結せむとするに至らしめたり。露國革命の前途如何は、混沌として豫測す可からざるものありと雖も、極端的社會主義を宗旨とする過激派政府にして永續し、休戰條約より一歩を進めて、單獨講和の實現せらるゝが如きあらば、露國は啻々聯合國を離りて現戰局より離るゝのみならず、獨逸勢力の下に屈服して、聯合國を敵視するに至るなきを保せざる也。萬一、露國にして獨逸勢力の下に屈服して、聯合國を敵視するが如きあらば、其の影響を被むるものは、第一に歐洲戰局の現狀其也。第二に東邦問題の將來也。

露國にして獨逸勢力の下に統一せられ、露獨の提携成り、獨逸の陸軍に加ふるに露國の陸軍を以てし、聯合軍に敵するが如きあらば歐洲戰局の大勢茲に定まり、獨逸の軍國主義、最後の勝利を占めむも未だ知る可からず。露獨提携の結果、露獨の聯合軍にして中央亞細亞より印度の國境に逼るが如きあらば、印度の平和、保つ可からず。露獨の聯合軍にして西比利亞を利用して東邦に出で、日支兩國を脅すが如きあらば東邦の平和保つ可からず。念て此に到れば、露獨單獨講和の成否如何は、聯合の勝敗如何に關する大なるものあると同時に、東邦の治亂に影響する亦少小ならざるを知るべく。吾人は我が帝國の任務益々重きを加ふるを認めざらむと欲するも能はざる也。

米國の參戰は、露國に代りて聯合國の新勢力と爲り、就中、財政的援助に於て新生命を聯合國に與へたるは、刮目に値すと雖も、軍事的援助の効果如何は、之を今後の事實に徴するの外無けむ。左れど、米國にして其の國力に相當する海軍と陸軍とを提供し、長期に亘るとも、歐洲和戰の死命を制するを得ば、米國の世界に於ける位置は、益々重視せらるべきを疑はず。我國參戰の結果として、日支の協同宣言と爲り、支那及び太平洋の平和は、特に我が帝國の負擔する所と爲り、[illegible]して、支那領土の保全と平和の維持とは、是れ亦我が帝國の任務に歸するに於て、吾人は國際政局の推移變化に伴ひて、日本の東邦に對する使命の益々重大なるを感ぜざらむと欲するも能はざる也。

池上秀畝畫伯試筆

世界的の船腹缺乏

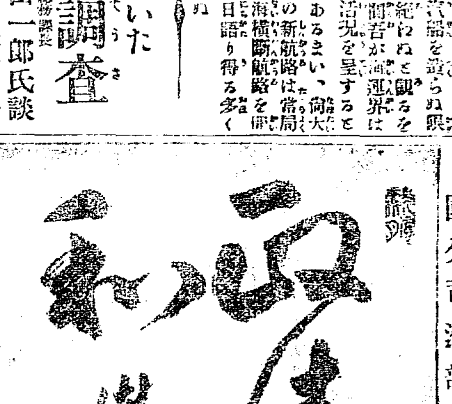
朝鮮郵船會社長 原田金之祐氏談

大正七年の海運界は六年の春夏の候に見たやうな高潮時代は來ないにしても大體に於て予は好況を繼續するものと觀測してゐる、何故と云ふに世界大戰亂の終局は米國が大仕掛けで昨年參戰したのと英國や佛國の普通りならぬ決心とにより推測しても到底年內に來るものとは思はれぬからである、萬一年內に講和期に入るやうな事があつても戰後の混雜紛亂は到底海運界を平調ならしむるとは思はれない、成程昨年米國は五百萬噸の船舶を新造する旨公表した、又英國は二百萬噸の新造を發表した、而して其の公言程の新造は直ちに竣成せないにせよ、兎に角兩國の造船界は非常の活氣を帶んでゐるやうだ、然しながらその新造船の影響が日本の海運界に及んで來やうとはどうも信ぜられないのである、實際昨年末から新年の昨今內地の傭船料は船舶管理令や財界の變調やらで噸二十圓內外に低落してゐるが今年の三四月頃になつたら更に傭船料の昂騰を見しはしないかと思つてゐる。要するに一起一伏はあつても今年の海運界は好況だらうと信ずるのである、[illegible]してゐるからだ、予の記憶する所によれば戰前世界の船舶は年々二割五分位宛の平均で增進してゐた、所が戰爭が初まつてから造船の增進がパタリと止んだ、而して其の不振や交戰國の無制限潛航艇の[illegible]を出すやらで、其不足は非常のものとなつた、乃ち今日全世界の汽船は戰前に比し五百萬噸方減じてゐる、乃で之れだけの船腹を補充し又戰後の多忙に對應し得るだけの汽船を造らねば船腹不足の聲は絕ねぬと觀るを至當とすべく其の間若干海運界は多少の高低あるも活況を呈すると思ふ大した誤りはあるまい、尚大正七年に於て朝郵の新航路は當局の命令を受け日本海橫斷航路を開設する豫定の外今日語り得る多くのものを有ちませぬ

終末に近づいた土地調査

土地調査局總務課長 和田一郎氏談

朝鮮の土地調査も愈々終期に近づいて來た、大正六年に於ける事業の成績と最終年度たる七年度の豫定[illegible]大要を述べると、六年中に完了した事業は異動地整理の外、細部測量、圖根測量、等級の調査、土地調査簿の調製並に土地所有權並に疆界に關する調査が何れも終了した、其の結果調査局の六課中調整課と測地課は解かれ高等官二十八名以下判任官雇員合計約一千二百名の免官を年內に行つた、然しそれらの事業の終末と共に今年新に殖えた事業もある、それは府郡島に於ける地籍事務の檢査及び調査、驛屯賭の調査である、地籍事務の檢査及び調査は土地調査局より既に府郡島に引繼いだ各簿の取扱ひに不備の點があるやうだからそれを檢査し又正確な方法を示して行くもので六年の七月十班だけを派出した、又驛屯賭の調査は朝鮮の驛屯賭十二萬町歩が從來殆ど有耶無耶の位であつたのを小作人本位に分筆し地位等級を調査し六十萬筆の臺帳及び地圖を作製するので之れも六年の七月から開始した、乃で結局七年の事業は(一)土地臺帳外多數の簿書を作製し其府郡島引繼をやる事(二)驛屯賭の調査の續行(三)地籍事務檢査の續行(四)異動整理事務の殘部(五)地形測量(六)土地調査終了に對する諸書の編纂(七)高等土地調査委員會等であるが之等は大正七年度に概ね終了再來年に殘るものは高等委員會の事務と地形測量の一部である、然し此の二つの事務を處理するのに如何なる機關を設くるかと云ふ事はまだ分らない、唯[illegible]の計畫に屬する土地調査事業は七年度を以て終末とするのである



國分司法部長官試筆

民間說話界に於ける馬 (二)

田中雪人

神代を離れて人皇第十五代應仁天皇の御世に、百濟から阿直岐を使として良馬二頭を貢いで來た。(日本書紀)ある人は此記事を楯にとつて、元來日本には馬が無かつたので、馬は朝鮮の輸入であると說いて居るが、果してさうだとすると神代の記錄は何う解釋するのであらう。更に日本武尊が信濃に進入られた時『長峯峨千。馬頓轡而不進』とある記事なども何う觀るのであらう。良馬を貢いだとあるのだから、或は良い馬が無かつたのかも知れず、且つ珍重されたのは事實であらう。馬はむかし唐國よりわたりたりし時は、耳のけものといひて、すべてまれなりしかば、帝王の御氣色よき大臣公卿のほかは、のる事もなし。されば良家こときて馬人とよむなり。これ日本紀萬葉の所見分明也。([illegible])それから後良馬が次第に日本に增殖して來たのでもあらうか。聖德太子傳曆には『六年戊午夏四月太子(厩戸)左右に命じて善馬を求め諸國に符して貢せしむ。甲斐國一鳥駒の四脚白き者を貢す。數百疋中太子此馬を指さして曰く是神馬也。(中略)秋九月試みに此馬を馭して雲に浮び東に去る。侍從仰觀るに、麿獨り御馬の右に在りて、直ちに雲中に入る。衆人相驚く。三月の後轡を廻らして歸來る。左右に謂つて曰く吾此馬に騎りて、雲を躡み霧を凌ぎて、富士嶽の上に至り、轉じて信濃に至る。飛ぶこと雷電の如く、三越を經て、竟に今歸來ることを得たり。』とある。遂に欽明天皇の時には、百濟の使節が歸國に際して、却つて此方から良馬を七疋持つてゐる。それは兎に角として、此聖德太子の乘られた馬などは、眞に說話界に入るべき性質のものである。これこそ天馬とか龍馬とか謂ふべきもので、先づ此話などは、日本に於ける天馬傳說として最も古いもの丶一つであろ。斯くまで飛行自在な馬の話は小說を別として日本には割合に數が勘ないやうである。

どうして

三十一 布施生譯

谷女に會ひに來た婦人と云ふのが、鏡伯爵夫人だと云ふ事は國栖は大抵想像がついた、夫人が一體どんな用向で武烈邸へ出向いたのであらう、國栖は兎に角夫人に近づく必要を感じて如何かして會つてみたいと思つたが、尋常では近づく手段が無い、其內不圖夫人が上流貴族の嫉で骨董に趣味を持て居ると云ふ話を聞込んだので國栖は得たりと早速馴染の骨董商から貴重な曲玉を借受け商人に化けて夫人の邸の門を潜つた。そして是非々々奧樣にお目に懸りたいと言入れたが結果如何と聊か不安の儘で玄關先に待つてゐると待つ間程なく取次は引返して奧樣は御不快でと手輕く面會を謝絶した、國栖はしかし一度で引下がるやうな腰の弱い男では無い、手にした籠を取次に渡して何卒之を奧樣にお目に懸けて戴きたい、こんな上物は二度とは手に這入りませんからと言入れた、取次は不安らしく一寸首を傾けたが、それでも素直に承知して又もや奧に這入つたかと思ふと今度は籠を持たずに飛んで出て何卒此方へと首尾は上々であつた。

部屋に這入ると何の事だ思ふに違つて夫人は今書上げたばかりと思はれる手紙を乾かす心算と見ゑ長々しい其卷紙が展げたまゝにいら〳〵と振捻かしながら部屋の中を彼方此方と步いて例の曲玉は傍の卓子に置棄にしてあつた、それでも國栖の姿が閾際に現はれると夫人は愛想よく笑顏を呉れて其儘手紙をちよいと坐右の書物に挾み忙しく曲玉を取上げた、其時國栖は熟々夫人の顏色を窺つてつい先日慈善市の時に見た夫人とは似ても似つかぬ程面變りのしたのに驚いた、一番目立つた頬の血色の無くなつたのはまさかあの時と著物が違つた所爲ではあるまいされば實際今の變りやうと云ふものは中々それ位の生優しいものでは無く謂はゞ光が顏から消ゑたやうで、つい先日慈善市の會場で武烈氏と立談をしてゐたのは意志と力との凝立つた輝渡るばかりの女王の姿であつたのが今は其意志も力も形もなく崩れてそれと共に光も消ゑた。

『は、あ、こりや絕望して居るんだな』國栖は腹の中で思取つて其擧動だけでももう苦勞の仕甲斐があつたやうな氣がして喜んだ。夫人は曲玉を右から左から打返し〳〵眺めながら『こりや結構なお品ね、何處から出たの』『買つて間違のある品ぢやあ無いと云ふ證明が出來ますかね』國栖は頭をさげて初の挨拶の容に換ね、直に言葉を續けて『證明と申しましては別段ございませんがしかし警察に知れましても差支のあるやうなものはございません』。夫人は一寸首をすくめて曲玉を手まさぐりながら氣のない聲して『實はこんなのはもの要りませんわ、それにね今日は買物をするやうな氣分ぢやあ無いの』と言つたかと思ふと今度は口早に『一體お値段はいくらなの』國栖は途方もない懸値を吹かけた、夫人は美しい眼でちらりと國栖の顏を眺めて『まあ驚いた、それぢや誰方か他所へ持て被往しやい、そんな物にそんなお錢は出せないわ』。國栖は不本意らしく曲玉を受取つて籠に押入れながら『實は是非共奧樣にお買上を願いたいのでございまして、もしや――』と言ひかけた方へ遙方の部屋から女の聲で夫人を喚ぶ氣勢がした。

春陽

文日 春陽堂 治治初正
松葉堂 岡本翠太郎篆

謹賀新年
朝鮮實業株式會社木浦支店 電話[illegible]
朝鮮興業株式會社木浦管理所 電話[illegible]
鎌田産業株式會社木浦支店 電話二〇九番
國武農塲木浦支部 電話三三七番

謹賀新年
大邱東雲町
大邱電氣株式會社

謹賀新年
本年度生產約壹百萬枚
群山府沃溝郡繩叺改良組合
△豫約入札に附す買受希望の向は直接照會せらるべし

謹賀新年
朝鮮總督府營林廠大口取引
營業課目 木材賣買。材木委託賣買。製材製函。木材輸送。木材保管
新義州木材株式會社 電話一〇七番(モ)又八(モク)
出張所 營林廠構內 電話二三三番
運送部 電話一二一番
製材工塲

朝鮮及滿洲 新年號(百廿七號) 本號に限り特價四十錢 郵稅二錢
發行所 京城 朝鮮及滿洲社

△年頭の感……釋尾旭邦
△國際分業の破壞と殖民政策……法學博士 [illegible]
△對支世界政策と日支經濟同盟……法學博士 [illegible]
△對支外交と寺內內閣の責任……尾崎行雄
△日支合辦滿洲露產金融機關の必要……商學博士 [illegible]
△日滿貿易と朝鮮鐵道……篠崎嘉市
△稀業地としての朝鮮と滿洲……[illegible]
△北支那及滿洲の石炭と鐵……[illegible]
◎北支那より南支那へ……釋尾旭邦
△最近の米國を觀て……丹羽清次郎
△滿洲より朝鮮へ……[illegible]
△國境に旅して……[illegible]
△東京の人物の印象と實際……[illegible]
△島崎藤村氏を語る……[illegible]
△朝鮮産業界の趨勢……小原長官
△朝鮮政變史……[illegible]
△考古學より見た朝鮮……[illegible]
◎馬の話……[illegible]
◎吾輩と冬……[illegible]
◎午の年の男と女……[illegible]
◎去年の一月……旭邦生
◎社會百面相……天來生
◎勅題『海邊松』に就て……[illegible]
◎朝鮮で育つた少年の告白……[illegible]

謹賀新年
土木建築業 安藝商會 主 富士盛健一
京城光化門通
和洋家具製造販賣 松浦京城出張所
京城黃金町二丁目
自宅用 長電話一四四番
營業用 長電話二三五番

□馬

平福百穗畫伯試筆

英首相の改曆挨拶
▽寺內首相に對し 客年中に於ける日本海軍の努力を謝す

英國首相ロイドジョージ氏は日本首相寺內伯に對し左の如き電報を送れり(倫敦電報)

余は改曆に際し英國軍事內閣を代表して貴國政府並に貴國民に向ひ謹んで好意を表示せんとす聯合各國が三年防禦に於て其國家を擧りたる大主義の勝利の上に人類の希望を繋ぎ居れるは時日を經過するに連れて益々明瞭となりつゝあり余は昨年中日本海軍が聯合國の爲めに絶大の貢獻を敢てせるに對し謝意を表せんとす余は信ず現下相提攜して忠實に戰爭遂行の任に膺りつゝある聯合各國の努力は必ずや多年世界の平和を脅したりし彼の憎む可き專政主義の羈絆より世界を救ひ出し確固たる基礎の上に築かるゝ自由の世の建設を招來するに至る可きを

講和談判破裂か
露國側委員プ市を去る

デーリーニュース露都特派員の報に依れば過激派は波蘭、リスアニア、リガ等に對する獨逸の態度強硬なるにより遂に講和談判を破裂せしめ委員はプレストリトウスクを去れり別報に依れば右獨逸の強硬なる態度は獨逸が一般的平和出現の場合を除く外リガ及びリボー其他の地點に軍隊を保有すとの要求を指すものなりと倘右の諸報に依りて推するに講和談判は破裂せるものゝ如し(倫敦電報)

講和談判と英佛米

英國政府部內にてはブレストリトウスクに於ける講和談判を以て獨墺側の眞意暴露を示すものとし公式の考慮を拂はざる可からざる重大なる新事實を形成するものなりと認め既に英、佛、米の諸國は意見の交換を行ひつゝあり倘英國政府が長期戰の準備を爲しつゝあるは勿論にて近く聯合軍側の戰爭目的に關する明確なる陳述發表せらる可しと(倫敦電報)

レーニン暗殺說
トロツキーも

非公式に傳へらるゝ所に依ればレーニン及びトロツキー氏は暗殺されたりと(露都電報)

憲法會議開會期

過激派妨害の結果開會を見るに至らざりし憲法會議は來る廿日正式に開會す可き準備成りたりとの報あり(哈爾賓電報)

露閣員逃走準備

露閣員は外國旅發狀を所持し何時にても逃走の仕度整ひ居れるが今

仁川期米場雜觀

新年初會の寄附に於て大輸の二十圓二十錢と發會上存外伸悩みの感があつかは今後の成行に傚せ[illegible]入札者であつた又以つて一地摺立米十八圓五十錢[illegible]より〇四錢中二十圓〇五錢輸の細少によると正米より〇二錢新甫十五錢上り大上放にありたる關係る是迄近高きか新甫安きより的中者なく最高値の出來たり[illegible]二十錢下押となる譯であ相場の大暴騰を來し居る十錢高を以つて左の如く

一長輸大豆十一圓六十錢 延安大豆十一圓五十五錢 一等大豆十一圓二十錢

[illegible]

京城正米

[illegible]五十錢高の入電と新市況の當市米市場は沿線地方の書報と共に人氣甚だ強硬にし仁川府にては[illegible]

政始式

四日は政始式當日に就き天皇陛下には午前十時西の間に出御參列の寺內首相以下各大臣兒玉內閣書記官長井上東京府知事岡田警視總監等に拜謁仰付られ先づ下條內閣書記官より大正六年神宮御園禮祭典並に臨時祭典總て滯り無く遂行せられたる旨を奏上し次で寺內首相より各官廳の事を奏上し陛下には立御の儘聞し召され天機麗しく入御相成たり(東京特電)

內閣初顏合

四日午前十一時寺內首相以下各國務大臣は宮中の政始式退出後內閣に初顏合を爲し終つて主務省に立寄り次官以下より新年の祝賀を受け政始式を行ひ又波多野宮相は官房にて次官以下より新年の挨拶を受けたり(東京特電)

千家男爵薨去

貴族院議員男爵千家尊福氏は一日午後二時自邸にて心臟痲痺を起し同九時遂に薨去せり享年七十四才危篤の趣天聽に達するや特旨を以て正二位に敍せられたり(東京特電)

「略歷」正二位勳一等男爵貴族院議員出雲國造千家尊福氏は皇宗天照大神の末裔臣氏中無氏の家柄にして大神第二の御子天穗日命より十七世なる國造の先代尊澄の長男にして雖を嗣ける國家六十四世に至る迄代々出雲國造たり氏は弘化二年八月六日を以て生れ明治十一年一月家督相續同五年出雲大社大宮司に任じ同六月少大敎正に補し神道西部管長を命ぜらる十年出雲大社宮司に任じ同十五年大敎正に補し同十七年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる同二十一年元老院議官に任じ爾來文部省普通學務局長埼玉、靜岡、東京府各知事に歷任し同四十一年司法大臣に親任せらる爾後に貴族院議員に撰げられ爾來共職にあり曾て東京鐵道株式會社長東京府奨會議所特別議員等に撰げられ公共の事業に盡瘁せる所尠からず

レ政府議員捕縛

にも內閣更迭す可しとの噂盛んなり(露都電報)

憲法會議の當日過激派政府は捕縛命令を發し議員多數を捕縛し又ケレンスキー氏の事務所も家宅搜索を受けたり(露都電報)

カレヂン軍占領

カレヂン將軍はサラトフを占領せり猶露國戰場より十萬の援兵を送れりと(露都電報)

督軍代表者密計

馮總統、王總理、李純氏等の妥協政策に不滿を抱ける張作霖、鮑貴卿、張懷芝、閻錫山、盧永祥、楊善德諸督軍の代表者等は數日前北京に密會し現狀打破の第一著手として先づ某々等を排斥し之れに代うるに某々を以てするに決し秘密裡に畫策中なり(北京特電)

レーニン派武裝解除

ウクライン派はキエフルに於て過激派を大破し大砲三百七十門彈丸五百萬發を奪ひ多數の將卒を捕虜としレーニン派をして全く武裝を解除せしめたり(哈爾賓)

兩派休戰と講和協議

イルクーツク市に於ける過激派及び反過激派は九日間激烈なる戰鬪を續けたるが去る三十日兩派協議の上休戰し委員を選びて講和の協議をなしつゝありと

光瑞師計畫の諸事業

大谷光瑞師は三日商船亞米利加丸にて基隆より門司着山陽ホテルに入りたるが五日別府に赴き九日同地發十日長崎より郵船日光丸にて香港へ向ふ筈なり師の將來は南洋に於ける椰子油製造計畫につき石原旅順工科學堂教授と打合せの爲めなるが如く又師は椰子栽殖に全盛せり右計畫に關し石原氏の說に依れば椰子油製造はセレベス島メナスに起すべく一日の製造能力は三噸、機械は獨逸博士の計畫に成りしものにて一部は大連に註文し殘りは大阪にて製造し三月神戸に積出す可き豫定なり尙師は更に勞村經營、水力事業を計畫し之が爲め來る九月再び滿洲に赴くべしと(門司特電)

下院豫算委員並に常任委員

衆議院豫算委員竝派別並に常任委員左の如し(東京特電)

△政友會 濱田國松、[illegible]

△憲政會 [illegible]

△國民黨 三郎、三輪哲雄、早速整爾、野間[illegible]夫、橋本喜造、加藤定吉、町田忠治 [illegible]

△新政會 小橋藻三衛、中山梅治郎、鈴木梅四郎、高木益太郎、村松恒一郎、中川幸太郎

河野廣志、松永安左衛門、小山[illegible]太郎、尾崎敬義、横井[illegible]四郎、[illegible]、福田辰五郎、松井文太郎

△第一部 △豫算 濱來太郎、吉谷久綱、野田卯太郎、櫻井兵五郎、山田[illegible]一、小橋藻三衛、中山梅治郎 △決算 小川郷次郎、中村啓次郎、[illegible]、本田三郎、松島[illegible] △懲罰 前田米藏、[illegible]田政、戸井嘉作 △請願 陣軍吉、神川長久、菊地良一、大藪房次郎、大林森次郎

△第二部 △豫算 上野松次郎、中西六三郎、井上角五郎、植松[illegible]、富田幸次郎、鈴木梅四郎、阿野[illegible] △決算 山內範造、三輪市太郎、川村[illegible]之、堀川美哉、近藤[illegible]一 △懲罰 丸山嵯峨一郎、山田正年、吉田中[illegible]、赤間[illegible]之吉、高岡唯一郎、高見之通、小山松、伊東知也

△第三部 △豫算 [illegible] △懲罰 熊谷直太、[illegible] 文太郎、[illegible]、寺田省[illegible]、秋本[illegible]、[illegible]

△第四部 [illegible]

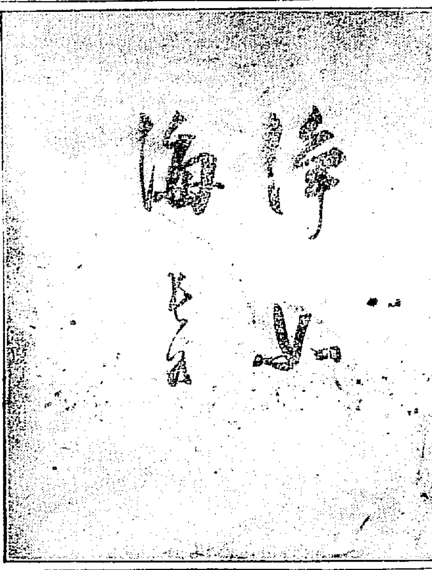
△第五部 [illegible]

△第六部 [illegible]

△第七部 [illegible]

△第八部 [illegible]

△第九部 △豫算 田邊熊一、吉植庄一郎、加藤定吉、町田忠治、村松恒一郎、高木益太郎、[illegible]田辰五郎 △決算 奧田[illegible]造、成田[illegible]信、井戸文四郎、中島[illegible]作、中川[illegible]之輔 △懲罰 戸水寬人、秋山金助、阿波[illegible]次郎 △請願 鳴海文四郎、高橋本吉、牛田唯一、[illegible]田[illegible]藏、山口俊一 △請願 木村政次郎、奧村三樹之助、河西豐太郎、吉田三郎右衛門、森本是一郎



久保滿鐵京管局長試筆

御用始式

△總督府

總督府にては四日午前十時より第一會議室に於て御用始の式を擧行し高等官以上參集、總督臨場の上山縣政務總監は官吏服務規律を朗讀し總督より「本年も一層勵精を望む」旨の挨拶あり尙各局課にては下僚の祝詞を受け同十一時退出したり

△所屬官署

高等複審地方各法院遞信局土地調査局各監獄京畿道廳京城府廳稅關田張所[illegible]

△憲兵隊司令部

四日午前十時憲兵隊司令部樓上會議室に司令部職員全部參集古海司令官の勅諭捧讀及び訓示あり

△警務總監部

終りて警務總監部職員全部參集古海警務總長の官吏服務規律心得の朗讀及び訓示ありたり

△警務部

四日午前十時京畿道警務部樓上に同警務部職員及び京畿道憲兵隊本部職員參集し國澤警務部長より軍人に對しては勅諭捧讀官吏に對しては官吏服務規律心得の朗讀訓示ありて後一同退出せり

銀行會社始務

朝鮮銀行滿鐵京城管理局東洋拓殖會社京城支店等の市中銀行會社は四日より事務を開始せり倘朝鮮郵船會社は二日事務始めをなしたり

朝鮮銀行異動

內地總支配人の新設

朝鮮銀行にては今回內地支店總支配人を新に設け滿洲支店總支配人が滿洲各店の業務を指揮監督する如く東京大阪神戸三店の店務を支配する事となりたるが其の結果の異動は四日左の如く發表したり

內地支店總支配人 東京駐在理事 木村雄次
東京支店長 內地支店副總支配人 佐藤得四郎
東京支店助役 內地支店總支配人附 石井光雄
大阪支店助役 大阪支店詰 松田義雄
東京支店助役 伊藤寬治

東京駐在秘書役大原胤夫 秘書役を免し本店勤務倫敦及び紐育に出張を命す
東京調査局勤務 提嘉三
大連支店助役 滿洲支店總支配人附 倉富鈞
右の外當部課に八九名の轉任異動を發表せり

倫敦駐在露國大使任命

過激派政府は無線電信にて一市民たるトウイノフ氏を倫敦駐剳露國大使に任じ同時に在英國大使館員一同及び其の他の露國官吏が新任大使に對し公文書及金品を引渡さん事を要求せり(倫敦電報)

回答加入と米國

米國が獨逸の講和提議に對する聯合軍側の回答に加はらんとする意思ある事は明白なり但し米國が獨帝と商議せず其の國民と商議を爲す可しとの決心は今猶之を變へさず(桑港領電報)

敵軍に新年の挨拶

英軍總司令部附路透通信員の報に曰く『我軍は例年の如く新年を迎へたり夜間數個師團の砲兵は一齊に十二回の光力爆發の祝砲を放ちて十二時を報じ又他の砲兵は正確に砲火を以て千九百十八の文字を現はし獨軍に瓦斯彈を發して新年の挨拶を爲せり右の方法は數箇所にて演せられたり』(倫敦電報)

山東兵安徽集中

南京よりの報に依れば山東省兵一萬餘既に安徽省城に集中將に戰はんとするの意氣込あり李純氏は之を慰撫して事無きを得たるも徐州浦口間は二時間にて達せらるゝ距離なれば衝突の憂ひあり(上海特電)

仁川の御用始

仁川府にては四日午前九時三十分御用始の式を擧げたり(仁川)法院支廳其他各所何れも四日午前より事務を開始し地方[illegible]

□本日附錄共八頁

元旦吟 虎耳
春雪に潮先き光り松の色

百種

松の戸はお芽出た[illegible]

[illegible]

□期米初會

臨外にあり

□定例休刊

五日は新年宴會に付翌六日發行の本紙は定例休刊す

謹賀新年

寫眞術研鑽の目的を以て組織し常に率先進歩を計りつゝある本會々員は將來一層の努力を以て最も新機軸を應用し名位の御滿足に添はん事を期し申候

寫眞師同志會

岩田寫眞館 京城黃金町一丁目 電話三一六
磯野寫眞館 京城黃金町二丁目 電話一三二
本町寫眞館 京城本町二丁目 電話三一三
獨立寫眞館 京城本町二丁目 電話二一三
金原寫眞館 京城本町二丁目 電話二九五
河上寫眞館 京城本町二丁目 電話一八
村崎寫眞館 京城旭町一丁目 電話一九
山尾寫眞館 京城本町二丁目 電話四二
丸城寫眞館 龍山漢江通 電話一二
京等寫眞館 京城六丁目 電話六一
高田寫眞館 龍山漢江通 電話七〇
玉川寫眞館 京城南大門通 電話九四
菊池寫眞館 京城黃金町二丁目 電話〇四
鎌田寫眞館 龍山一丁目 電話二四
長崎寫眞館 京城漢江通 電話三五
上田寫眞館 龍山元町 電話八
大阪寫眞館 京城武橋町 電話九
秋山寫眞館 京城鍾路 電話二九
隆治寫眞館 [illegible]

朝鮮新聞社

謹賀新年

朝鮮鎭南浦三和町

株式會社 中村組

福岡縣若松市本町 若松出張所
東京京橋區[illegible]町 東京支店
福岡縣門司桟橋通 門司支店
神戸市海岸通 神戸支店
大阪市東區備後町 大阪出張所
平壤本町 平壤支店
青島北京町一六 青島出張所
鎭南浦億兩機 鎭南浦造船部
鎭南浦三和町 [illegible]部
福岡縣直方町 鐵工業所

奉天高等旅館
奉天驛前 一力旅館 電話[illegible]
奉天驛前 大星ホテル 電話[illegible]
奉天驛前 滿洲旅館 電話[illegible]
昭德大街 瀋陽館 電話[illegible]

謹賀新年

朝鮮銀行平壤支店
平安農工銀行
漢城銀行平壤支店
百三十銀行平壤支店
東洋拓殖株式會社平壤出張所

穀安く大阪正米小賣會入電を基とて▲穀物綜合業組合…にて當地は十時一節立會を開始した▲飯田社長病氣にて入場なく立會に際し▲役員田氏の挨拶ありたり▲當限二十圓丁度よりなり當二十圓零一錢中二十圓零一錢先二十圓三十二錢と散會を告げたり▲人氣は大阪の大上放れを受けたるも客殿に於ける如く標準米の改正により當標準米より十錢下位の物となりたるより見れば二十錢前夜の上鞘は新米格五十錢を控除せば結局…自立會後取引所の…したるに大阪の二十三圓三十五錢取引所々員中村伍鐵若仁川の十九圓九十三錢本社の勝本清次君であつた尤其當時と

仁川正米

▲正米市場初商內は大阪定期米の大暴騰を受けて人氣強く昨年末の出來相場に比し三十五錢乃至四…一穀良部玄米二十圓…▲大豆昨年末出來相場より十五錢高人氣にて左の如く出來たり

一白川大豆十一圓五十五錢

…し正米市場も年末間際に至り定期關係と貨物不足により人氣一變春高構へとなりし事は與に報せし通なるが其後愈々之を實現し新若早々大阪正米氣配へなり値の如き組合協定値二十錢高の二十二圓五十錢を發表し鮮白又四十錢方の高見當にて眼先頗る堅撥

…の挨拶あり▲仁川警察署にては同日午前九時半より署樓上に於て御用始式擧行署長の訓話あり午前十一時終了▲仁川稅關にては例年

釜山入港高麗丸一二三等客　一等（一名）神田純一　二等（廿四名）松永安吉、家族二名、福田市二郎、原田長、本田安五郎、岡田勝市、岡本猛、鈴木元、同岡かく、今澤哲郎、玉川政吉、山川條久、同やす、米田伊作、三枝勝四郎、能勢…

三日午前釜山入港さくら丸一二等客　一等（なし）　二等（十八名）廣松きせ、を紫、中島清之進…三等百十一名

李王世子御宿所石造殿（宮內）

六年振りにて 李王世子の御歸鮮

十三日夜御入京＝廿九日迄御滯在

李王世子殿下には陸軍中士官學校御終業の上陸軍歩兵少尉に御任官ありしに就き六年振りにて今春匆々御歸鮮の由は既報を經たるが殿下には高事務官金武官等を隨へさせられ

▣十日東京御發　同夜京都驛御著、十一日桃山御陵御參拜同日京都御發十三日朝釜山御著の上同夜御入京相成るべし御滯京は二十五六日迄にて廿九日迄の御賜暇の由又梨本宮女王殿下との御慶事は二月中御發布に相成るべき李王家婚嫁規合の制定並に之に伴ふ御準備の都合にて

▣今秋の佳節を卜し東京に於て擧げさせられ世子同妃兩殿下御同伴にて來春再び御歸鮮の御豫定なりと拜聞す尚李王職に於ては武官李秉武子、々爵趙東潤男及び武藤事務官趙事務官外屬官二名十二日釜山に出迎ふ筈

▼宏壯雄麗の建築

李王世子殿下の御旅館に充てらるべき德壽宮石造殿

近く御來鮮相成るべき李王世子殿下の御旅館に充てらるべき德壽宮石造殿は朝鮮に於いて罕に見る宏壯雄麗なる建物にして同殿は總建物四百八十坪地下室十三室一階九室二階十三室廻廊下を用ひ屋上は平屋根にて

▣四方の眺望 を擅にするを得べし、同殿は明治二十八年舊韓國政變後當時の皇帝李熙陛下即ち現今の李太王殿下が景福宮より新王城たる慶運宮即ち德壽宮に移御さるゝこととなりた翌々年明治三十年當時の總稅務司ブラウン氏が慶運宮の本殿を洋式に改築せん事を計畫し

▣國王の嘉納 を得て在支那の英人技師ヂエー、アール、ハーリング氏にその設計を依囑し敷地を德壽宮の北廻九成軒の南に選定し明治三十一年より三十二年に及び英人技師エフ、エ、カートマン氏現場監督にて地形基礎工事を了りたるがその後カートマン氏の辭し去れる後を受けて三十三年六月當時の文部省技師竹本力松氏建築主任となり小川莉雄氏英辭主任となりて

▣建築に著手 せるが此の間政治その他種々の關係より障害頻々として起りたるがため遂に起工以來十三年の長年月を費し三十八年に至りて大殿の工事竣工を見るに至り更にその後小路造三氏主任となり四十年夏ブランゥ氏の囑託により英國より技師ロウエル氏出張容地調査及び內部裝飾の設計を爲し四十二年夏倫敦メープル社より技師職工等渡鮮して一切の裝飾工事に取懸り四十二年春に至りて全く工事完了するに至りたるものなり、同殿建築の總工費は不明なるも約百萬圓にして建物は勿論器具調度一切純英吉利風のもの、由、然して李王世子殿下には明治四十四年五月嚴妃薨去の際石造殿に御起居ありし事ありといふ

風雪の峻嶺を越えて

國境中江鎭に於ける立花將軍

十一月廿七日より氷山雪嶺を踏破して十二月二十日中江鎭に到著した立花將軍は意氣軒昂語りて曰く

▣全行程の半ばにも達せぬが少々疲勞を感じたので一日は當地に滯在して休養する事にした。途中大分困難ではあつたが。しかしその中又得易からざる

▣情味と快味 を戀わた或は零下三十度內外の大江、氷上を通り又は馬足人の頭より高い峻嶺を風雪を冒して擧越ゆる等實に妙絕奇絕を叫ぶべき事が日に幾回かあるを知られ。我輩は去大正二年七月に一回この地を通つた事があつたが夏の旅行は險難ではあるけれどもその辛さの程度は冬の旅行には比べにならぬ。實に此邊の冬期旅行は並大抵の事では遂れぬ。しかし到底で邊疆を守る士卒が

▣我輩の訪問 に對して心の底から歡迎をして吳れたのは吾輩に取つて實に滿足の至りで全く豫想外である。我輩も彼等が零下三十度の所で不屈不撓の精神を以て極めて眞面目に活動してゐるのを見て涕の滂沱するを覺ねざるを得なかつた。誰か帝國の士氣を疑ふべきか皆擧國の威學する所にして歷世養ふ所の深きものあるを知るべしだ。何れ一月十五六日頃には龍山に歸任するからその時ゆつくりと話さう（中江鎭）

練習艦隊來る

練習艦隊磐手淺間の二艦は來る六日大連より仁川に入港の筈にて九日鎭海へ向け出港の豫定なり（仁川電話）

軍隊の新年

步兵第七十八聯隊では元日午前九時池內七十九聯隊長以下聯隊附の各將校以上は正裝して登廳、午前九時から將校以上は各個にその他は各中隊別にて御眞影奉拜式を行ひ各自新年の挨拶を交換したのち將校は將校集會所で準士官及び下士は下士集會所でいづれも盛んな祝宴を催したが兵卒は居餅と雜煮餠を充分に飲んで食つて外出を許された傍ら引續き二日も三日も外出を許可されたので朝から積雪を踏んで三々五々手を連ねて市中を歩いてゐた

帝都寒氣強し

東京には二日朝降雨あり夜より東北の寒風吹き荒み午後稍衰へたるも三日午後五時の氣溫氷點下四度を示したるが四日朝稍寒氣緩みたり（東京特電）

神酒を祝ふて騎り初め

乘馬倶樂部の寒稽古は十日から

新年はめでたうといひたさうに厩の柵に繋がれたまゝ長い首を突き出して前足を折り屈める御馴染の

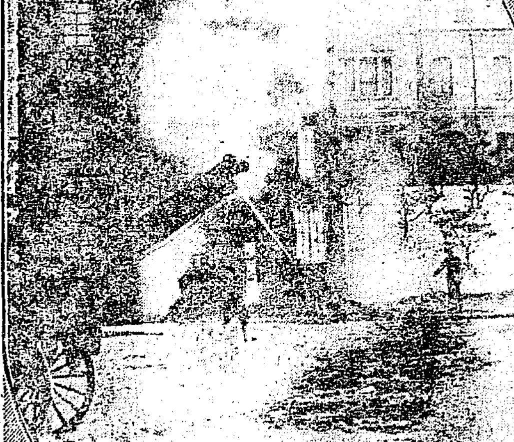
▣馬の鼻面を 撫でながら馬場に曳き出してヒラリ〳〵と之に打乘つたのは同倶樂部きつての熱心家と言はれてる村田鑛務課長、飯泉鮮銀、田中山林課長、瀬戸醫學士、二宮醫師、橋破翁、白寅基其他の五六氏、二日午前九時いづれも騎初のため黃金町の京城乘馬倶樂部へ集まつたのだつた、騎初をする前に先づ神酒を祝ふて

▣各自寒風に 馬首を立て、騎乘を試みてのち一同小宴を張り午前十一時散會したが當日集まつた會員間に於いて寒稽古に關する協議を凝らした結果一月十日から二月八日まで毎日午前七時三十分より寒稽古を行なふことに決定したが同期間中缺勤者は一回について金二十錢、遲刻十分までは恩惠時間として課罰せず七時四十分には

▣出勤した者 は遲刻者として一回毎に金十錢、公務出張は出勤と見做して十錢宛を徵集し毎日先著者には特勤として優先權一個を與へ終りに日々の勤退表によつて成績を定め一等より六等まで賞品を贈ることを會員に郵つて通知したさうである

京城消防隊出初式

（下）假設洋館三階建發火消防の光景



昌德宮消防演習

四日午後一時より昌德宮にては常備消防隊及び義勇消防隊二百餘名の消防演習を行ひたり李王殿下には國分次官、尹司長其他昌德宮警察署長、各課長を隨へ御臨場救命

目覺しい消防演習

盛んなりし各消防隊の出初式

京畿道警務部常備消防隊並に京城府內各消防組の消防出初式は例年の如く一月四日午前十一時警務總部東方廣場に於て擧行されたり此日參集したる各消防組員は所屬隊署の主任憲兵警察官引率の下に

▽午前十時迄に 會場に參集の上蒸氣喞筒を初め各種の消防器具、金色燦然たる纏ひ、機械梯子なんどを勇ましく所定の位置に配列し、各消防手は今日を晴れと新裝を正して整列せり、斯くて定刻ともなれば消防手の吹奏する嚠喨たる喇叭に依りて式は開始せられたり、之れより嚴き遠藤秘書官を隨へたる山縣政務總監は釜屋、高橋兩武官、齋藤大島兩副官と共に臨場あり古賀警務總長も副官を隨へて定刻前に臨席あり、次で指揮官吉田憲兵中尉は一同を指揮整列せしめたる後警務部長に人員及び器具の報告を終れば警務部長藍澤大佐は府內の各隊長を隨へて臨場の上人員並に機具の檢閱を行へり、終つて直ちに

▽消防演技に 移り京城及び龍山消防組員三名宛の梯子乘りあり而立されたる梯子の尖端にて鮮やかなる離れ業を見せて喝采を博し次ぎに小熊主任警部指揮の下に常備消防隊の火災救助並に消火演習あり豫て構內東方の一隅に間口十餘間三階建ての洋館を設らへあり俄かに警鐘鳴るよと見る間もなく件の洋館建てより爆竹の音と共に發火するに至れり、スワ出火といふ叫びの中に常備消防隊の目覺しき活動あり機械梯子を懸け避難者を救ふもあれば洋館の三階より救助袋を吊り下げて屋內より消防手の

▽變裝したる 支那人朝鮮人內地婦人なんどを續々袋の末端より地上に救ひ出すあり救助幕に依り飛び降りせしめて救ひ出し擔架に載せて避難せしむるあり家具を持ち出すありホースを用ひて消防に努むるなんど零下十餘度の嚴寒中を物ともせぬ働き振りに觀客一同の大喝采を博せり、消火と共に一同場の中央に方形にし警務部長の訓示ありて左記十年間勤續功勞消防手に對し賞狀を授與せり次いで古海警務總長より目錄の授與ありて午後零時半目出度終りを告げた因みに表彰されたる消防手は左の如し

▲常備消防手李範俊、邊興植、洪昌寅、盧石奉、李元福▲京城消防組村山源平、松田寅太郎、宮本多助▲龍山消防組小頭西村利平

釜山の出初式

釜山消防出初式は四日午前九時警察構內に集合擧行せり演習終りて市中各所にて梯子登りあり午後四時より南濱芳千閣にて新年宴會を開けり（釜山電話）

藝妓の廻禮

鮮銀消防出初式

朝鮮銀行消防隊にては四日午後一時より同行構內に於て出初式擧行し美濃部總裁の挨拶に亞で消防司令長三島理事の訓示ありたり

仁川消防出初式

四日午前八時三十分警鐘一打と共に仁川常備消防各組は警察署構內に參集消防器具の檢閱を受け終つて署構內に整列署長の訓示を受け常備消防組は府廳前に於いて梯子上りの妙技を演じ直ちに仁川神社に參拜各部に別かれて市內各要所を廻つて正午府廳構內に於いて例年の如く午前十一時より消防演習を開始せり而して目標は約五十尺の高さに球燈を吊し之に向つて先づ腕用喞筒の威力を示し續いて打ち落しの競技をなし更らに水道栓を使用し最高部の目標に向て放水を試み正午終了散會せり

電車官舍に闖入す

三日正午頃京城電氣株式會社の電車第六十號車が仁義洞なる裁判所官舍京城地方法院部長橫田判事宅附近を進行中突然前車輪の心棒が折れたるため俄かに二間餘りを横走りに脫線して路傍の並木ポプラ一本を折り其の餘勢にて激しく官舍の板塀に食ひ込みて長さ四間許りの塀板を破壞して辛くも停車せり乘客六名ありしも幸に死傷なかりしが之れが爲めに電車の運轉手及び救助網は粉碎されたり急報に依り會社にては多數の工夫を派し復舊工事を施し同日午後五時漸く運轉するに至りしかし同線は複線のことゝて片側のみは電車の往復ありしかば交通には別に支障なかりしと

頻々たる火災

二日間に四回

二日午後八時十分頃京城西部洞百九十六番地宋德任方より出火して同番地なる崔元內金長喜方の兩方に延燒し三戶を全燒して同九時半頃常備消防隊が消止めたり損害約五百圓人畜に死傷なく原因取調べ中▲三日午前十時二十五分頃昌信洞二百二十三番地勞働金乃俊方の焚火より屋根に燃え上りたるも間もなく消し止む▲二日午後七半頃儒洞二百十二番地閔弼方より出火せしも家人が消し止む▲同日午後四時武橋町六十三番地妓生李金仙子方煙突より出火屋根坪を燒きたるのみにて鎭火損害十圓

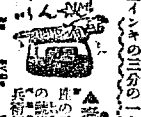
大好評を以て終りたる
ちゝぶや半額割戻し
最終當籤日は十二月二十六日
依て右日付印ある受領證引換に向ふ一週間以內に於て當店商品を以て半額お戻し可申候
京城本町
ちゝぶや
電話八九〇番

安東の火事

二日午後十二時頃安東五番通り四丁目易斷所相水井空外事大東一文堂温突より出火隣續きの下宿屋伊勢屋に延燒したるも間も無く消し止めたり（安東）

便利なインキ

東京日本橋… の一八サンマル工業所新製のオサンナルイインキは固形と粉の二種にて湯水で溶かせばまゝインキとなる便利重寶なるものにて價は普通インキの三分の一なりと



えんげい

▲壽座　市川巴左衛門一座の五六日の狂言は… ▲喜樂館 … ▲浪花館 … ▲稻荷座 … ▲大正館 … [illegible]

株式名義書換停止公告
定款第二十三條ニ依リ大正七年一月四日ヨリ第二十二回株主定時總會終了ノ當日迄本行株式名義書換ヲ停止致候
大正七年一月四日
株式會社漢湖農工銀行

主人松本強之助儀目下病氣中朝鮮醫大學病院に入院中に付年始の禮を缺ぐ
新町 大壽樓帳場

賀正 和洋菓子舖 鐵原邑 寶來堂

謹賀新年 食料品並雜貨 清酒 鐵原邑 米田商店

謹賀新年 食料品並生魚 鐵原邑 商 八百喜

謹賀新年 會席御料理 鐵原邑 廣島屋

賀正 齒科專門 鐵原邑 齊藤文治

賀正 鐵原 郡廳職員一同

謹賀新年 鐵原邑 山田醫院

謹賀新年 高等旅館 鐵原邑內 山口屋

謹賀新年 旅館 鐵原驛前 構內辨當仕出 鐵原館

大田郡廳 急行年賀缺禮 中島廉一

謹賀新年 天然スレート屋根葺工事一式 淺野スレート屋根葺工事一式 羊印アスファルトフェルト販賣 其他建築材料一式 京城太平通二丁目 岩出出張店 電話一千六百七番

謹賀新年 朝鮮新義州本町一番地 原木委託買 賣買○製材 荒木商店 電話二四五番 振替京城四七三〇番 製材工場 新義州鴨川町 出張所 義州郡北下洞江岸 電話六二番

謹賀新年 肥料○學 種苗○農具 鮮南勸業株式會社 江景支店 長途電話五四番

賀正 中井運送店

賀正 落谷富助

賀正 [illegible]

賀正 [illegible]

賀正 [illegible]

謹賀新年 [illegible]

謹賀新年 [illegible]

謹賀新年 [illegible]

謹賀新年 宮崎自轉車商會

謹賀新年 平壤シンガーミシン會社 千國惣重

賀正 稻葉組 電話三六番

賀正 平壤八千代町 齋藤長藏 電話五四七番

賀正 土木建築請負業 平壤本町 和田組 電話一〇五番

謹賀新年 大田春日町 青柳醫院 青柳藤次郎 電話三七番

謹賀新年 山陽支店 和洋茶鋪 岡本軒茶舖

賀正 燕岐郡 高凌駿 岡野滿辰 石橋盛枝

賀正 京釜線永同驛前 好見運送部 同所本町 好見雜貨部

賀正 京釜線黃澗驛前 菊池運送部 菊池雜貨部

謹賀新年 公醫 河野秀一

謹賀新年 湖南線江景 登錄商標 荒卷農場 同 醬油釀造場 電話一三番

櫻御殿

大阪 霞の家主人

第百十二回 編笠浪人（六）

藤五郎は兩刀を袖に包んで、小風呂敷を肩にかけて居た、無論袴は穿いて居ない、それが成るべく小暗い處を通行するようにして居るので、夜目には町人らしく見えた

北の方から來た浪人體の男は、それを見遁して立ち止まつた、折から月は雲にかくれして、西風が激しく吹く、それに伴れて、木の葉が落ちる、雁が音高く天を行く、藤五郎は故意と小石に躓いて、そこへ轉げさうにした、とたんに

『町人待て』と浪人は呼んだ

此の浪人は云ふまでも無く利右衛門であつた、酒の醉は覺めて、眞蒼な面をして居る、朱鞘の一刀に反を打たせて、つか〳〵と驅け寄つた、藤五郎は肩にかけた風呂敷包を捨てゝゐると、佩刀の柄に手を掛けて

『何か用か』と問ひ返した、町人かと思つたのが、案外に武士であつたので、流石の利右衛門も躊躇としたが、今さら引き込む理には行かず、ずッと進んで

『所用がある、命を貰ふた』

云ふなり、二尺七寸五分備前長船の一刀をすらりと拔いた、刄の光が稻妻の如くにひらめく

『何にを、おのれ』

藤五郎も拔き合せる、双方の刄が空を切る

老松の蔭にかくれて、此の機會を待つて居た九人の壯士は、すはと云ひさま、拔きつれて打つて出た、利右衛門は思ひがけぬ大敵に圍まれて、逃げるにも逃げられず渡り合ふ、されど相手は多勢、味方は一人、阿彌陀堂の縁を楯にして、暫くは切り結んだが、彌ど二の腕とに微疵は受ける、額の疵から流れ落ちる血潮が、たら〳〵と眼皮へ入る、今一時戰ふ中には、すだ〳〵に切り苛まれるか、もしくは甲斐なく生捕られて、生耻を曝らすであらう

『無念なな』と齒噛みをする、まことに利右衛門の生命は風前の燈火であつた、薄尾花が亂れ散るように閃き渡る刄の下にあはや身と首とが離れようとした

此の時の利右衛門の胸の底に娘桐島の云ふ事を背かず、刀さへ振へば、その下から黄金が湧いて出るように思つた失策を後悔したであらうか、もしくはそんな餘裕も無く、男らしく戰つて、協はぬときは潔く一命を捨てる心算であつたらうか

藤五郎はもう大丈夫と思つた、切り殺すのは易いが、それでは面白くないから、生擒つて大野の屋敷へ引いて行かうと思つた

『內府公の町人を手に掛けて、企致を繰ふ白者、以後の見せしめ殺出あたりに曝らして遣らう』と考へ

『殺すな、生捕れ、とくと面體を見ねばならない』

殘る九人の壯士は同じ思ひで、劍を振ふ、利右衛門は『生捕られて堪るか、斯ら成り行くも前の世の因縁である、刄のつゞく限り戰ひその上で死んでくれる』と覺悟して散々に渡り合ふ

折から提灯の火が見ねる、然るべき武家の家中が、用足からの歸りと見ねて、仲間若黨が五六人も供をする、その人數が次第に近くいて、脱兎の如く逃げ出した、それと云ふなり、十人の武士が追ひかける、利右衛門は西へ逃げる、提灯は西から來る、その横をすり拔けて飛鳥の如くに行く

『それへ曲者が參る、御加勢下されへ〳〵』と藤五郎は大音をあげて叫んだ

通りかゝつた士は、大手を廣げて利右衛門の持つ白刄の前に突立つた

新年文藝

俗謠 課題『若水』

一等 平原鶴子

○祝ひ清めてくむ若水に戀はなけれど水鏡

二等 龍山乃英

○釣瓶豐かに若水汲めば松に旭を吐く朝の風

忠州 酒井桃冠舍

○心いそ〳〵汲む若水に影も睦まじ女夫星

三等 京城光熙町二の二六 松浦義村

○同じ流れを汲む若水に榮え行く家と沈む家

京城本町三丁目五一（見の坊） 吉岡嚴次郎

○賤が家に今朝初産の産湯めてたや若清水

龍山元町まや方 岡本小草子

○燃ゆる緋縮汲む若水にうつる笑顔も初々せ

秀逸

京城光熙町二ノ二六 安木良安藤朝

△若の惡みを汲む若水に射すや旭の影鳥の影

花園町一二二 猫田春曉

△新し若水飼桶に汲めば中に夜明の星の影

京城本町一丁目 上山方德緑

△ゆらく釣瓶吹く若水に老の腕に力こぶ

京城 青島軒 野宿灯

△妻と呼れて今年の春は嬉し若水くみ初める

京城 村雨秋之助

△痩せた袖帶ら若水汲めば少しお春めく松

京城 東海

△年の若水汲む車井の音も勇ましく響明り

元山 牒山駄鶴

△明けの朝で若水湧かせ萬歳を祝ふよニ〳〵と

演藝案內

壽座 京城壽町 電話五七八番 一月五日（三回目替）前狂言 金の鯱鉾名古屋騷動 切狂言 山形屋六兵衛 三勝半七酒屋の段 開幕午後五時より

黄金館 電話二六三七 二六六 第二回替り一月五日より新提供 [illegible]

浪花館 明治町二丁目 電話二六〇番 [illegible]

壽館 京城本町 電話一〇五〇 [illegible]

新派撮影 大悲劇 須磨の仇浪 愛子夫人三回忌

大好評連鎖活劇寫眞 桃中軒雲右衛門 勝田新左衛門妻子別れ

連續活劇 赤イ目 全二十卷の內 第十編六卷 大提供

黄金館 五日より開演（五日六日七日三日間晝夜）

大正館 櫻井町 電話八七三 [illegible]

稻荷座 本町五丁目 [illegible]

有樂館 [illegible]

商況

大阪期米特電

十三圓七十五錢の入電二高に寄付き〇二錢引 新市錢より四錢と跳ね一錢先 納會後正米の引締を報じ三十五錢と沸騰したるも引所審査部部長藤本氏の[illegible]

節六十五錢 三節六十七錢 下の節二十錢

仁川期米

四日初立會

[illegible] 十五錢上 節の二十圓二十三錢より二錢引 [illegible] たると大阪入電は大暴雪 高値は又賣物多く無得に 說を聞くに新標準米忠清より三十錢下位ならんとの [illegible]

△受渡不進捗 十二月限受渡高は實に三萬二千石の大數に上りたり [illegible] 不進捗に終つたのは [illegible]

謹賀新年 朝鮮群山府本町 三井物産株式會社 群山出張所 電話長一二番 電話長三四四番

謹賀新年 東亞煙草株式會社 朝日 群山販賣所

謹賀新年 平安南道廳 工藤英一 李範來 篠田治策 富永一二 八田吉平 穗積眞六郎

謹賀新年 安東縣市場通 株式會社宮下洋行 安東縣出張所 電話二三番

謹賀新年 朝鮮煙草株式會社元寶捌所 帝國生命保險株式會社代理店 共同火災保險株式會社代理店 雜貨商 井上商店 忠清北道忠州

謹賀新年 指定旅館 滿鐵及守備隊 元寶館 安東縣市場通 電話四五番

謹賀新年 大阪五丁目 [illegible]

謹賀新年 朝鮮群山港本町（電話一〇一番） 加茂松藏商店

謹賀新年 湖南線地境 森井農場 森井郁三

謹賀新年 湖南線黄登 臨水利組合 吉村肅三

謹賀新年 全羅北道沃溝郡米面 宮崎農場主 宮崎佳太郎

新年の御慶 群山榮町 芽出度申候 渡邊吳服店 電話三二〇番

謹賀新年 群山港本町 米穀商 長田鐵治商店（電二八番）

謹賀新年 全羅北道沃溝郡瑞穗面 川崎農場主 川崎藤太郎

謹賀新年 全羅北道沃溝郡開井面 島谷農場

謹賀新年 忠清南道江景 東洋拓殖株式會社 江景出張所 所長 安井亮 外所員一同

謹賀新年 織原邑內 丁寧親切 日之出旅館

謹賀新年 忠北忠州 會席御料理 末廣館 大宴會場の設備あり如何なる大宴會にも差支なし

謹賀新年 安東縣料理屋組合（いろは順） 太丸由東壽東卜安 陽小長之美壽京東俱樂 樓亭助雲禮司一部

謹賀 新年 營業課目 [illegible] 平壤府停車場通 株式會社 平安攻玉園 電話二六四番 電略へコ 振替口座京城一四五五

謹賀新年 大邱幸町 朝鮮輕便鐵道株式會社

謹賀 新年 自轉車、學校机、黑板、運動器械、注油式測旋塔 各種製作 優良校具 優良運動具 各種 朝鮮龍山 松村工作所 電話七一三番 振替京城一二七八

謹賀新年 安東縣

會席御料理 壽美禮 電話三一番

謹賀 新年 大阪商船會社專屬 免許稅關貨物取扱 鐵道貨物取扱 其他陸海運送業 木浦組 全南木浦 電話一二番

謹賀新年 登錄商標駝鳥印クローム製ボックス及キット製造販賣 大田皮革株式會社 電話長一三四番 電略（タヒ）

最新刊

書名	著者	定價
小說『春の海』	渡邊霞亭	一、三〇
海上生活	水上滝太郎	一、〇〇
凸坊先生	奥野他見男	四〇
一握の葉	田山花袋	五〇
縮刷大石内藏助	福本日南	一、三〇
若き日のため給 歌と物語		一、三〇
小說『小さき芽』	市河彦太郎	一、〇〇
小說『櫻の家』	佐藤紅綠	一、三〇
漱石俳句集	夏目漱石	一、〇〇
美術上の基督	加藤一夫	一、二五
人は何時覺醒するか（ラスキン原著）一永久の歎こび	宏岡大樹	一、二〇
英語上達法百話	神保格太郎	六五
英詩金色夜叉	アサ・ロイド	一、二〇
袖珍英和辭典	三省堂	八五
日支大辭典	石山福治	八、〇〇
自然界の所化御覽	林源四郎	一、九〇
取引所論 上卷	藥田藤吉	二、五〇
天然生活法	坂田豐講演	八五
小說『惡魔の家』	小栗	一、二〇

其他新年の讀物店內山の如し

大阪屋號書店 京城本町壹六八四・二〇八六・振京城二五七

▲書籍御案內▼

自然と人生 定價三〇 郵稅〇四

同 青山白雲 定價二四 郵稅〇五

同 京城日報代理部（振替京城三〇〇）

大阪商船株式會社 汽船出帆廣告

仁川出帆

×大智丸 木浦、神戶、大阪行 一月十一日 午前時
×安東丸 木浦、釜山、鹿原、那ノ浦、長崎行 一月十五日 後時
○安東丸 大連行 一月八日
×安東丸 一月廿一日
○安平丸 濟津行 一月十一日 後十二時
元山出帆
橫濱行 △龍州丸 一月十九日 午後
○上海、基隆、打狗行 基隆丸 一月十日 前六時
○湖北丸 大連出帆
內地各港出帆主要航路 南米行 每年四回 北米行 每月一回 濠洲行 每月二回 孟買行 每月二回 南洋行 每月一回
御注意 [illegible]
大阪商船株式會社仁川支店 電話二番 京城通 電話仁川一切告船所 [illegible]

朝鮮郵船

○關門より釜山各地經由 元山より北鮮各地經由雄基行
第二高運丸 一月十三日
咸鏡丸 一月十九日
京畿丸 一月四日
忠清丸 一月九日

本社 京城南大門通 電話 [illegible]
釜山支店 元山出張所 仁川代理店 木浦港代理店 山野回漕部 松原運送店

○元山より北鮮各地經由雄基行
○元山ヨリ釜山經由門司行 第二高運丸 一月廿四日 元山發
○京畿丸 一月十五日
○元山ヨリ江原道寄港釜山經由門司行 咸鏡丸 一月廿一日 元山發 忠清丸 一月十日
○鬱陵島行浦項及各地寄港 登德丸 一月二日 釜山發
○浦項行 江陵丸 每日 釜山發 襄陽丸
○濟州島行長承浦麗水巨文島經由 昌平丸 一月五日 釜山發
○濟州島行 東萊丸 一月二日 慶興丸 一月八日 木浦發
○釜山、麗水間 統營丸 巨濟丸 每日 釜山發
○木浦群山間 木天丸 三日目每 木浦發
○木浦ヨリ多島海各島行 慶興丸 一月三日 木浦發
○仁川木浦行 晉州丸 金海丸 一月七日 一月二日 仁川發
○仁川鎮南浦行 宗信丸 一月 日 仁川發
○海州行 全州丸 南陽丸 每日 仁川發
○青島行 三十一日ハ休航 一月一日モ休航
○江原丸 一月六日 仁川發
○清津行（大阪神戶門司より） 平壤丸 一月十三日 一月十一日 元山發

尼崎汽船出帆 仁川

秀吉丸 大有丸 赤城丸 君が代丸 山、木浦、釜山、下關、神戶、大阪行 十二月廿九日 十二月廿六日 十二月廿四日 一月四日 後四時出
仁川海岸通 五十九番 杉 回漕部

日本郵船出帆 仁川

三河丸 竹島丸 淡路丸 大連行、秦皇島行 一月十日 一月五日 一月八日 正午出
仁川海岸町 十一番 堀 回漕部

共同汽船出帆 仁川

共同丸 芝罘、大連行 月 日 午後入港 日正午出帆
阿波共同汽船株式會社 本町四丁目（電話一七三番） 野口商會
仁川代理店 元山代理店 春日町 田口回漕部 京城取次店 河村運送店

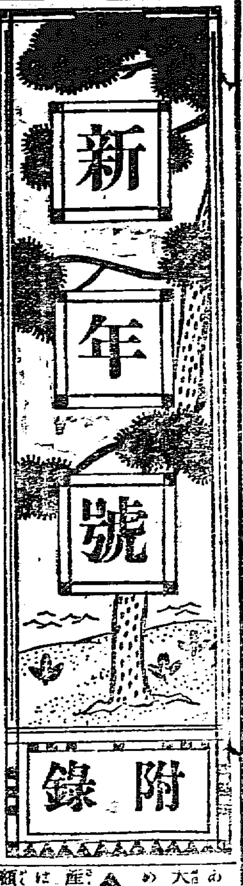
釜山出帆廣告

汽船 和歌浦丸 門司、神戶、大阪行 一月四日後五時出
立神丸 元山、清津、浦潮行 一月十二日 後五時出
和歌浦丸 一月廿四日後五時出
立神丸 一月廿三日後四時出
○佐須奈、厳原、壹岐、博多行 天興丸 每月二日九日十四日廿一日廿六日 午後十時出帆
○元山、西湖、新浦、城津、清津行 第三琴平丸 一月 日後六時出
○門司、宇品、神戶、大阪行 第三琴平丸 一月 日後六時出
釜山港立新町 大池回漕部

間自動車著發時刻

[illegible]

織居自動車部 金泉支部



美濃部鮮銀總裁試筆

大正六年の回顧(二)

漢城銀行專務取締役 韓相龍

▲交通上の施設 以上の外吾が大陸對策の表現として八月より朝鮮國有鐵道の滿鐵に委託經營あり十月より漢江人道鐵橋の開通あり十一月二十五日より清會鐵道の全通あり何れも運輸交通上特筆すべき出來事たり

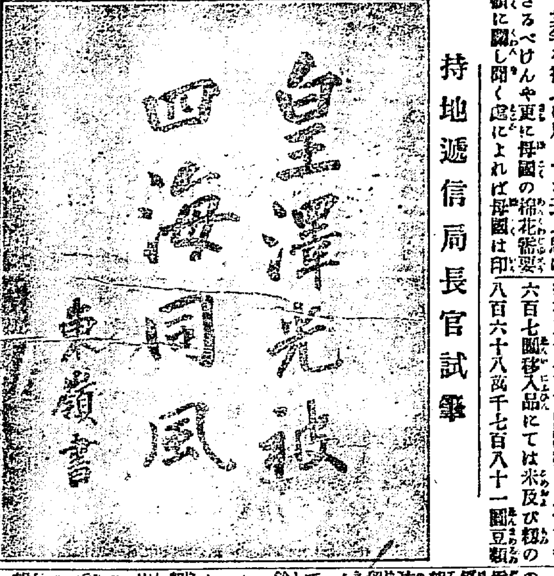
▲工業の勃興 近年朝鮮に於ける工業の勃興隆盛は農業の發達と倶に欣ぶべき現象にして今や半島も事業勃興の機運に向ひつゝあるものゝ如し、抑も工業の要素は天惠物の豊富なると勞働賃銀多くして且つ賃銀の低廉なること海陸交通の便宜なること等は其主要條件たるべし依之富源の開發は如上の素質を具有する地方に在ては彌々新事業發生するに到る現今其著しきものを擧ぐれば製糖、紡績、生絲、製粉、製紙、製肥、燐寸、セメント、兵器製造工廠、硬質陶器等其他規模小なるものに在ては玆に枚擧するに遑あらず又鑛業發達も非常なるものあり即ち久原精錬、三菱製鐵其他大小の鑛業各地に著手せられつゝあり、凡そ國益の發展は農工業及び鑛業の盛否如何によつて定まるものなれば如斯各種事業の隆盛は實に國富の增進將來偉大なりと觀察する處なり

▲物價騰貴 歐洲戰亂後物價は漸次昂騰の一方に傾き其底止する處を知らず殊に客年最も激甚を加へたりしが折柄市價の變動誘起により暴利を得るを目的とする商人輩出せるの傾きありしと云ふ此弊たるや多く大都會の市場に行はれ延て地方に波及するものなれば不自然の物價騰貴は社會政策上之れが抑制を必要とするは勿論なり、客年九月農商務省にては暴利を得るを目的とする買賣の取締上米穀類、鐵類、石炭、綿絲及び綿布、紙類、染料、藥品の七類に對し物價調節令の發布を見たり之所謂熱中に冷を加へられたるものにして相應の效果ありたるものと察せらる

▲穀價騰貴 米作の狀況は昨秋第二回收穫豫想高一千二百三十三萬餘石にして第一回豫想高と略ぼ同樣なり之れを前年實收額に比すれば二十九萬八千五百餘石即ち二分四厘の減收なるも最近三箇年間に於ける平均實收高に比すれば二十一萬千餘石即ち一分八厘の增收也と云ふ而して前年に對し比較減少の事由は播苗期に於て旱天出水等にて右の原因に徵せば農村の經濟は悲觀せらるゝが如しと雖も事實は之れに反せり即ち物價騰貴に伴ひ穀價は前年に比して約五割方上値に在り依之收納減は價格に於て優に補ひ得るのみならず大に餘剩を生せり加ふるに農家副業の發達は富の增加となり從て一般鮮人の生活狀態も頗る向上せり、穀價騰貴の影響として利廻採算上近年土地熱を惹起し來り漸次地價の昂騰を告げつゝあり吾人は殷作に次で看過す可からざるものあり何んぞや朝鮮の棉作之れなり客年の棉作は播種後各地共旱災を蒙むり秋收の成績上懸念せられし處なりしが其後氣候適順なりしと作付反別の增加と相俟て產額異常に增加したり其筋の調査を聞くに陸地棉五千六百五十七萬斤之れに在來棉を加ふれば總收納額七千萬斤に達すべしと而して棉花の價格を見れば從來は一斤に付き十二三錢に過ぎざるもの今や二十八九錢となりて未曾有の昂騰を呈せる際なれば一般耕作農民の所得は無臨增大したる次第なり

▲棉作奬勵 由來棉作地として有名なるは全羅、慶尚、忠清、黃海の各道にして總督府の奬勵により陸地棉作の施設擴大となれるに伴れ逐年產額增加の進境を示せるものにして如上の進步は大に欣ぶべし更に將來の計畫あるべきを信ず何となれば棉花の需要は實に無限と稱し得べく假りに如上の數量は朝鮮に於ける消費額に對しても其半を補ふに足らずと云ふ思はざるべけんや更に母國の棉花需要額に關し聞く處によれば母國は印度に對し每年棉花代金として約二千五百萬圓を支拂ふものなりと如何に其莫大なる驚くべきに非ずや而して棉花の輸入は繰棉及び紡績原料として綿絲綿布類に織成せられ內地の需要は勿論朝鮮、臺灣、樺太に移出し更に海外輸出に係るもの多しと雖も兎に角我が帝國工業の原料として無限の需要ある棉花の耕作は近き朝鮮に於て大に之れが擴張を要すること極めて緊要事たるを知るべきなり

▲盛んなる蠶繭 [illegible]地方の產業にして特筆すべきものあり道は蠶繭の產額顯著にして客年の產額各道を通じて約十萬石此價格七百萬圓なりと云ふ之れ稀有の增加にして前年に比し約三萬石を增加し價格は生絲昂騰により內地移出も極めて盛況を呈したり如斯發展を見たるは地方官廳の指導大に多とする處にして益々向上的發展を希望して止まざるなり



持地遞信局長官試筆

大阪と朝鮮

七年貿易有望

大阪對朝鮮貿易が逐年著しき發動を來たしつゝあるは兩者の取引關係密接となり兩區興業の發展を立證すべく即ち大正五年度の移出入總額四千二百七十萬七千五百十二圓なるに大正六年度にては五千六百二十二萬七千八百七十七圓にて千三百五十二萬三百六十五圓の增加を來たし之が

▲移出入額を區分せば大正五年度の移出額二千六百九十萬六千八百六十二圓に比し同六年度には三千七百九十二萬八千五百八十圓に達し移入品は二百四十九萬八千六百四十七圓の增加を來せり而して移出品中重要なるは綿織絲布三千七百萬圓酒類の八十萬千六百七圓移入品にては米及び籾の八百六十八萬千七百八十一圓豆類の百六十萬三千九百四十八圓牛皮及び水牛の百五十六萬五千五十圓等なり倘朝鮮に於ける重なる取引地は京城を中心とし釜山、仁川、木浦、元山、大邱、鎮南浦等なるが大正六年度は

▲物價騰貴の爲め 五年度に比し移出品は金額に於て約五割增額せるも貨物の振りは二割三分の增加なり而して貿易額は運輸機關の設備如何に依る所頗る大なるは論を俟たざる所なるが歐洲戰亂勃發後船腹の不足を招致し或は輸送機關不備の爲め滯貨著しく荷主側にては之が爲め季節物の輸送遲延し爲替の處置に困じ取引上に打擊を蒙りし者多く昨年十月の如き大阪驛にて荷受けせしは僅か一週日に過ぎず荷主は西部管理局に對し滯貨處分方を屢々請願してより稍く順調に向ひたるなり獨り梅田驛のみならず

▲關釜間連絡船の 配船不十分なる爲め下關に貨物停滯し甚ては廣島岡山其他中間各驛に累を及ぼすを常とし之が爲め貿易上に支障を醸したるが若し運輸機關完備し居らば貿易額は優に三倍以上に達しなるなり從來朝鮮貿易品は內地品と同樣の取扱を爲すべきも關稅關係上外國と同じく關稅を賦課し居れりされどこは日韓合併後十ヶ年間の契約にて明年に至らば該期間滿了すべきを以て以後は內地と同樣關稅を課せざる事となるべきを以て稅關は對鮮貿易を殆んど重要し居らざる現狀にありされば前途益々有望にして

▲發展の見込あり 昨年度重要移入品中米は八十萬石大豆は七十萬石牛皮は百八十萬圓にて牛皮のみは一昨年度に比し百五十萬圓減額し居れるもこは近時朝鮮の工業熱旺盛となり皮革會社其他の會社勃興し同國に於ける消費力增大したると露國注文品が爲替關係上一般手控となれる結果なるも朝鮮貿易の發展は大阪に於ける中流以上の商人五百餘名が大阪朝鮮貿易組合を組織し朝鮮の開拓に汲々たる現狀に照して明かなり而して從來貿易業者なる者大阪に三十餘名ありて各種の雜品を

▲先方の要求通り 取揃へ逆送するを業とせしが彼我兩國貿易關係密接となるに伴ひ從來移出品の三割五分が仲繼業者の取扱ひにかゝりたるも資金關係其他の爲め漸次減少の傾向を呈せりされど彼等は常に貿易の先驅者となり朝鮮に於て活動の餘地を認められざるに至らば新に滿洲方面に開拓の步を進むべく大正七年度に於ける貿易界は一般良好なるべし即ち昨年度に於て物價騰貴或は輸送機關不備の爲め出荷を手控へ居たる向も移入品商相場の結果資金の運轉よく購買力豐富となり隨つて需用額も潤澤となり移出の際之が餘澤を受けて漸次順調の域に達すべし(大阪)

謹賀新年 忠南江景 韓一銀行江景支店 長電話五八番

謹賀新年 全北沃溝郡廳 郡守 趙漢喆

謹賀新年 忠南江景 米穀商 林秀輔商店 長電話三七番

謹賀新年 朝鮮群山港 尼崎汽船部 群山出張店 電話二〇五番

謹賀新年 群山港本町 貿易商 精米業 森菊五郎 電話長一二番

謹賀新年 群山港全州通 米穀貿易商 岩田宇之助 電話長三四番

謹賀新年 全州學校組合議員 山下猪三郎 電話三八番

謹賀新年 全羅北道全州 近藤新一郎 電話三番

謹賀新年 全羅北道全州大正町 山田光彥法律事務所 電話五〇番

謹賀新年 全州學校組合議員 岡田春次

謹賀新年 全羅北道全州 志賀法律事務所 電話二〇五番 出張所 井邑 群山

謹賀新年 全州學校組合議員 横道元愷

謹賀新年 全羅北道全州本町 菊乃屋旅館 電話二六番

謹賀新年 全州本町三丁目 後藤滿事務 後藤生七郎

謹賀新年 全羅北道全州本町 銀杏店屋旅館 電話一〇一番

謹賀新年 全羅北道全州本町三丁目 平野屋旅館 電話長六四番

謹賀新年 全羅北道全州八達町 二葉 長電話二八番

謹賀新年 平安北道廳 藤川利三郎 尹甲炳 秦秀作 佐藤榮三 高橋權三郎 佐藤政次郎

謹賀新年 平壤魚仲買業組合 井上支店 中山商店 小畑商店 鐵商店 尾崎商店 伊勢島商店 松本商店 齊藤商店 小林商店 野村商店 江口商店

謹賀新年 全羅南道榮山浦 全南繩叺製造販賣組合 電話四十五番 振替京城三七四七番 出張所 光州、南平、松汀里、長城、鶴橋、咸平 木浦

謹賀新年 五龍背温泉

謹賀新年 合名會社 石崎商店 安東縣市場通 安東縣本店 京城府岡崎町 京城支店 忠北清州郡 梅阿山出張所 忠南禮山郡 加倻山出張所

元山壽町 金光合資會社 電話一六四番

謹賀新年 旅行具專門 岩田鞄店 京城本町二丁目 電話五九四番

謹賀新年 倘本年も舊に倍し一層の御愛顧奉願上候 大正七年一月元旦 元山本町 鶴屋洋品店 電話二〇一番五〇六番 振替京城一七三七番

謹賀新年 安東縣六道溝 本店 前田製材所 電話三三五番 店主 前田安次郎 安奉線本渓湖 支店 前田定吉

謹賀新年 元山券番 電話四四九番 政治 君龍 愛吉 喜多八 靜子 駒壽 九奴 千代子 芳子 芳勇 富久介 はんた 玉吉 須磨子 喜榮 政枝 勝龍 芳太郎

謹賀新年 (イロハ順)

京城本町二丁目 巴城館 電話三一五〇七番

京城壽町二丁目 原金旅館 電話千百十五番

京城本町二丁目 浦尾旅館 電話一〇三一一七

京城本町二丁目 山本旅館 電話三二五番

京城南山町二丁目 天眞樓 電話六九四七一三番

京城旭町二丁目 不知火旅館 電話七一九一三

京城本町一丁目 清光館 電話一三五〇番

謹賀新年 (イロハ順)

各國時計類、貴金屬製品、眼鏡類販賣 並ニ測量製圖觀測器修繕 京城本町三丁目 電話一一〇五番 市川啓藏

各國時計附屬一式貴金屬類眼鏡類似中電燈 京城本町二丁目 電二九七八 振京一二一九 川合時計店

各國時計美術品商 京城本町二丁目 電話五七番 振替口座京城三四八七番 田中時計兄弟商會 田中始一郎

貴金屬美術品一式製作販賣 京城本町二ノ二 電一五二 店主 土橋珍松 土橋金光堂

各國時計 貴金屬寶石類並美術品製作 京城太平通二丁目 電二四二五 振三九七〇 Ⓜ向井時計店

時計材料器械 眼鏡類卸商 植村支店 京城黃金町一丁目 電一三四八 山岡龜太郎商店

各國時計各種 金銀眼鏡各種 其他附屬品 京城鍾路二丁目 赤帽子時計店

各國時計 自轉車蓄音器 香器 京城黃金町二丁目 電一〇一五 振京城七八二番 喜多金光堂

各時計及附屬品 寶石入指輪眼鏡 貴金屬美術品 京城本町二丁目 電話一三九番 木島時計舖

時計眼鏡 貴金屬製作販賣 京城本町三丁目 電話長二二四九 金銀屋

各國時計商 貴金屬 京城本町二丁目 電話一〇〇番 三浦天龍堂

眼鏡專門 京城南大門通一丁目 電話二九五九 宮川大學堂

各國時計 貴金眼鏡寶石 指環美術裝品 貨金屬商 朝鮮京城本町二丁目 電話二三〇一 振京一三六一 平井勳資堂

聖上陛下御愛馬『タップ』

清朝の小說に就て（二）

今關天彭

（三）十二樓

聊齋志異は立派な漢文であるが、諧詞小說は口語を直寫したもので日本現代の小說と變つたところはない。その小說に就いては、先づ李笠翁の十二樓からお話する。十二樓とは、樓閣に關係のある事柄を十二程取り出して、その一つ毎に一篇の小說を脚色したのであつた。即ち（一）合影樓（二）奪錦樓（三）三與樓（四）夏宜樓（五）歸正樓（六）萃雅樓（七）鶴歸樓（八）拂雲樓（九）十卺樓（十）奉先樓（十一）生我樓（十二）聞過樓の十二篇である。

この小說は別名を覺世名言と云ひ多きは六回か少なきは一回讀切りの短篇であるが、李笠翁の大得意の勸善懲惡的意味が最も面白く描かれて居る。その中支那特有の借編安窮の思想は、鶴歸樓に於て之を見るべく、縱鬪を重んじまた處世方法に力めたる有樣は、生我樓に於て之を見るべきである。こゝでは支那人が多大の苦心を致しつゝある結婚に關して、極端なる詐僞結婚が行はれる狀況を夏宜樓から窺いて見る。

聞吉人と云ふ書生、西洋から渡つた望遠鏡を買ひこみ、之を利用して美人を見つけて我妻にしやうと思ひ、日毎に之れを手にして美人を探して居る中、フト詹と云ふ大家の庭池に多くの女が這入つて居るところを見かけた。これは折しも炎暑の日盛りであるから、詹家の女中が主人の午睡を伺つて、池へ這入つて游びまはつて居るのである。吉人は他目もふらず見つめて居ると、やがて一人の美人が出て女中共のはしたないのを叱つて居るやうだ、此美人は詹家の一人娘の嫻々である。吉人は嫻々の美貌にうつとりし、媒婆を傭つて詹家へ結婚を申込んだ。すると詹家では、我家は無位無官の婿を取らぬ家法であるからと謝つた、が嫻々はこの縁談が何となく惜しいやうに思はれた。吉人は一旦斷られたが思ひきれぬ。そこで郷擧の試驗に及第すると再び詹家の附近へ來て、例の望遠鏡で詹家を見ると嫻々が欄干によつたまゝ物思ひに沈んで居る。さては自分の事を忘れずに居るのであらうと、前に傭つた媒婆に旨を含めて、我が意を嫻々に通じさせ、また望遠鏡を利用して嫻々の作りかけた詩に和韻をし、遂に嫻々に自分が普通の人でなくして仙人であると信じさせた。かくて再び詹家へ結婚を申込んだが、詹家の答は依然として舊の通りである、そこで吉人は發憤して北京へ上り、首尾能く進士の試驗に及第したが、好事魔多く、その時嫻々に結婚を申込んだ人が吉人の外に二人あつた。詹公はこの二人と吉人の名前とを書いた籤を拵へ、嫻々にそれを引かせて、籤に當つた人の許へ嫁入させる事とした。嫻々は吉人を仙人と確信して居るから、きつと仙術を使つてこの婚事を完くさせると思つて籤を引く、意外、引き當てた名前は我が思ふ人でない、嫻々は仕舞つたと思つたが、忽ち氣轉を利かせて、利發な性質であるから、昨夜の夢に亡母が異姓の人を婿にするやう教へたと云ふ。詹公は之を聞きては娘と吉人との間に何か正しからぬ事でもありはせぬかと疑念が出たが、自分も三日間潔齋して亡妻を祭り、夢知らせに依つて娘の婚事を極める事とした、嫻々は吉人の仙術效無きのを嘆きつゝ事の次第を告げてやる。吉人はそれを見て微笑を含み、直ちに返事を認めた、さて三日は早くも經つたが、詹公には何の夢知らせがない、必定吉人と娘との間に怪しい事があるのだと娘を折檻した。嫻々は少しも恐れず、父に向つて申すやう『父上には妾がございますから、亡母上がどうして夢枕に立ちませう父上は亡母上のお位牌にお願なさるとき、祭文を讀んでは燒きすて、讀んでは燒きすてたさうでございます、私はその祭文を亡母上から敎へられました。それを暗誦いたしますから、それで疑念をお晴らし下さいませ』と云ふ。詹公は大に驚き、祭文を讀ませて見ると、一字一句も違つたところがない。この祭文は自分が作つて自分で讀み上げ、そして燒きすてたのであるから、誰れ一人として知るものがない筈なるに、それを娘が知つて居るとは、さては前世の因縁かさ、結局吉人を迎へて娘の壻とする事とした。吉人は思ひを遂げて詹家の壻となり、能い折を見て嫻々に望遠鏡を見せ『自分は結婚が籤引となつたと聞いて何とも策のほどこしやうがなかつたが、偶然望遠鏡で覗いて見ると、我父樣が何か字を書いてござる、それが亡き母上の祭文ぢや。そこでこつそり寫し取つて、お前へ敎へたのが奇功を奏したのぢや』と逐一物語り、自分が仙人でないのを白狀した。

笠翁の作はこゝにも見ゆる如く、いかにも奇創に富み、自在な巧思が泉の如く湧いて出る。しかもその極端に因果の理を顯はすところは、現代の讀者に取つては受けが宜しくないのであるが、この篇などには慣用手段も多く出ず、かつ寫景の文辭は流石に、老練を極めて居て、自ら棄て難い點がある。

李完用伯爵試筆

頌持柏葉壽長奉萬年歡　一堂

大阪の正月

舊家の今と昔

大阪の舊家といへば何れもこれも舊式ばかりを守つてゐるやうに聞ゐるが實際はさうでない、名高い舊家であつて新家以上に萬事現代式を發揮してゐる家もある、隨つてお正月の儀式なども昔のまゝに行はれてゐる向は少く、よし行はれてゐるにしてもその儀式はホンの昔の一部分に過ぎない、古老の話によれば某舊家の如きは元日には御寮人が御禮受けをする、當日は早朝に老分を始め別家平別家の人々が御禮に來てお納戸（御寮人の部屋）に於て御寮人に御慶を述べる、その部屋には

▽蓬萊山が飾られ 熨斗昆布が幾も結び下げられてある、人々はその熨斗昆布を箸でつまみて頂戴し丁寧に挨拶して引退る二日は御酒杯を備へて旦那が禮服着用で待ちうけてゐる、前例と同じく老分、平別家、別家がやつて來る、居蘇三獻、肴は數の子を小さく賽の目に切つたもので丁稚が代る／＼酌をする、人數が多いので隨分時間が掛り早朝から正午前までつゞく、先づ大略こんなものであるが現今は同家の如きも組織が一變して、別家制も廢せられて仕舞つたので

▽元日が御寮人で 二日が旦那殿といふ風に別々に禮受けをする古風はもう見られない樣になつて、今は主人と奧樣と打揃て元日にお酒杯の式がおこなはれる、以前ならば老分といふ處を、今では所謂幹部連が同家の關係者一同を代表して年始のお禮を述ると居蘇が酌まれて組重式の折箱が出る各自はそれを頂戴て歸るたゞそれ丈である併し別家制の嚴守されてゐる家では別家の人々がお禮に來ることは昔の通りであるさて現今も一般舊家に行はれてゐる

▽元日内輪のお祝は 早曉に若水汲まれ神棚や惠方棚に燈明上げられ、何とも云へぬ淸らかな新しい氣分滿ちて家族一同祝膳に向ふ、祝膳には山草（裏白のこと）が靑く敷かれにらみ鯛がすゑられ『海山』と記したのを始め家族の名前の箸紙（これは二つ折りの半紙を又四つに折りて裾をからげ水引をかけて箸をさせる）がそれ／＼添へられてある、先づ大ぶく（小梅干を煎茶に入れたもの）を祝ふ、大ぶくの時は無言である、次に雜煮が出る、これに一寸箸を添へて『お祝ひ／＼』の言葉と共に居蘇に移る

▽居蘇のお酒杯は 最年少者から年上者に、たとへば孫のある家ならば孫から始まつて祖母祖父さんが一番終りに酌む、子の養人もある家ならば末子から順次に配つて父親が一番後に酌むのである、尤も家々の家風によつて式作法はこの他に多少の差異あるのは言ふ迄もない、雜煮は大抵味噌雜煮で、花がつを、餅、大根、芋、燒豆腐などが入れてある、この雜煮は竈の下に豆萁を焚いて作らへるのを嘉例とする豆萁は出入りのお百姓から年末に必ず持つて來る事になつてゐる

▽年末は出入の大工が 『俎板しらげ』と『棚つり』を行ふ、棚つりは惠方棚を吊る事で、この棚は組み立てられるやうになつてゐる、惠方に當る神社のお札を頂いて來てそれを板に貼付けて祭る節分が過ぎたら棚は外して仕舞ふのである俎板しらげはお祝の形式に俎板に鉋をかけて白げるのであるが雜煮箸もこの時に持つて來るのである、尤ほ家によつて三ケ日とも味噌雜煮を祝ふ處もあるが、又元日だけ味噌雜煮で二日はやき雜煮（みづ菜に燒き餅を入れたすまし汁）を用ひる家もある、にらみ鯛は名前の通りに一寸睨んでおくだけなのである（大阪）

新年文藝

物は付

課題『樂しい物は』

一等 ○樂しい物は幼時の記憶 商州本町 上山八重子

二等 ○樂しい物は添へぬ内 公州 龜山秀刀

三等 ○樂しい物は御年玉 京城本町 眞村猛

△樂しい物は新婚の初春 京城 高野青灯
△樂しい物は正月の遊事 京城 正證
△樂しいのは當座百日 京城 阿木良安藤朗
△樂しい物は除隊兵の遊び 京城 青木城山
△樂しいものは賜滿 元山 内山蒸思
京畿利川 鋼仙讃井こう
△樂しいものは土産待つまで 忠清南道公州 鋼野眞俠
△樂しい物は正月中の休日 水原 逸金松の鳥人
△樂しい物は居蘇機嫌 京城 高須賀虎夫
△樂しい物は初兒の産聲
△樂しい物は歯の梅 京城 鋼田いつ子
△樂しい物は新世帯の新年 京城 円照榮眞
△樂しい物は飯事 京城 栄子
△樂しい物は水も漏らさぬ共稼 龍山 岡本小草子
△樂しいものは待つ間 京城 松浦歡村

謹賀新年 京城蓬萊町四丁目 李王職御用 東亞牧塲 塲主 獸醫 肥塚正太 電話五二一番

謹賀新年 綿糸布諸雜貨卸商 ⑧鬼頭京城支店 京城長谷川町 長電話一七一二番 電略（キ）又ハ（キト） 振替京城一八五番 （本支店）仁川、平壤、鎮南浦、大阪

謹賀新年 建築材料製品販賣 國産東郷便利瓦 合資會社穴原商會京城出張所 奧津金太郎 京城明治町二丁目（支那領事館通） 電話一四七一番

謹賀新年 食料品雜貨商 博多屋號 安藤商店 京城黄金町一丁目 電話二五一八番

謹賀新年 京城本町二丁目 京染御誂紋付各種 御自生地販賣 洗張ゆのし しみをとし かけつぎ 御刺繍紋上繪 衣裳圖案各紋種 ㊈京屋 笹野一雄 電話長一〇四一番

謹賀新年 食料品海産物問屋 池尻林太郎 京城南大門内米倉町市場 電話三五一番 振替京城八六番

謹賀新年 於朝鮮釀造品評會賞牌受領 最上清酒三矢印釀造元 植山本家 三矢酢造場 植山仲次郎 京城本町四丁目 電話三〇七五番

謹賀新年 自轉車及附屬品一式 直輸入卸商 清水自轉車商會 京城南大門通二丁目 電話二八九三番 振替京城三四〇六番 電略（シ）又ハ（シミ）

賀正 京城本町二丁目 荒井旅舘支店 本店 釜山 理立新町 電話二八八七番 支店 東萊溫泉場 電話七四三番 電話八七番

謹賀新年 東亞全州分工場長 佐藤憲三郎 全羅北道全州 電話二〇三番

謹賀新年 陸軍諸官衙御用達 諸紙文具卸商 江里口和吉 京城本町一丁目四十八番地 電話一〇三〇番 電信略（エ） 振替貯金京城一〇二三番

賀正 販賣部 京城府南大門通五丁目 東生商店 製作部 京城府蓬萊町一丁目 東生鐵工所 電話一四九一番

謹賀新年 京城明治町二丁目 東京生そば まつば 電話八三二番

謹賀新年 疊材料一式御小賣商 鷹取虎次郎 京城本町二丁目七八 電話百十四番 振替口座京城三六一一番

謹賀新年 革具カバン サック馬具卸 製造所 天野百藏 京城黄金町三丁目三十四番地

謹賀新年 全州監獄請負作業 パナマ帽子 纒叺 販賣 宮永友枝 全羅北道全州本町

謹賀新年 京城長谷川町二丁目一番 祥興洋服店 主任 張鴻海 電話九七一番

謹賀新年 産婆 三浦小糸 京城南山町三丁目一八 電話一四四〇番

謹賀新年 京城黄金町東拓會社前 建材築料 石田店 電話一一六一番

謹賀新年 京城旭町一丁目 御料理 千成 電話一五五二番

謹賀新年 晉州城外 上村重治郎

謹賀新年 晉州榮町日韓商會 清水佐太郎 電話十八番

謹賀新年 晉州城外 直輸入自轉車商 進商會 點燈部

謹賀新年 晉州城內 後藤商店 同 精米部

賀正 藥種商並に度量衡販賣 椋橋商店 京城府榮町角 電話三一六番

謹賀新年 時計美術貴金屬並に製作販賣 福田時計店 平壤大和町 電話四一六番

謹賀新年 京城本町二丁目 森啓助商店 電話四三〇番

謹賀新年 平壤南門通二丁目 銅鐵雜貨卸商 ㊅福田又支店 電話長一二〇番 振替京城一三八番

謹賀新年 京城本町二丁目 岩見吳服店 岩見寅次郎 電話二三三番

謹賀新年 仁川濱町二丁目 ⓗ光田造船鐵工所 電話三〇五番 光田百太郎

謹賀新年 平安北道警務部 山本喜房 高橋常太郎

謹賀新年 鎮南浦繰綿工場

謹賀新年 京城醫師會 （いろは順）

南山町一丁目（電一二三四番） 池田內科小兒科病院
池田病院內 川村兼良
櫻井町一丁目（電一二七一番） 小兒科內科 池上醫院
若草町（電一八三一番） 內科小兒科婦人科 今村醫院
本町一丁目（電一三九〇番） 內科胃腸病 石川醫院
南米倉町（電話一七六一番） 岩崎醫院
蓬萊町一丁目（電二八五二番） 今本醫院
本町三丁目（電話九二八番） 爲春堂醫院
永樂町二丁目 春野醫院
南山町二丁目（電一二一四番） 二元堂醫院
壽町（電話一二〇一番） 產婦人科 二宮醫院
黄金町三丁目（電二四四三番） 本田醫院
光化門通（電話一七四番） 小兒科內科 戶川醫院
明治町二丁目（電二三四〇番） 中央婦人病院
櫻井町一丁目 筑紫醫院
黄金町二丁目（電話二八三七） 朝鮮診療醫院
大平通り二丁目（電二二五八） 皮膚科外科 扇田醫院
明治町二丁目（電話一〇五八） 和田外科病院
南大門通二丁目（電二四二六） 內科小兒科 若槻醫院
若草町（電話一五五六番） 金井眼科醫院
明治町二丁目（電一五〇四番） 川崎醫院
黄金町二丁目回生醫院 垣田精一
本町二丁目（電話二一六番） 高井醫院
高井醫院內 松崎正彦
壽町（電話九四五番） 內科小兒科 多々見醫院
西小門町（電話八八五番） 內科 田中丸醫院
田中丸醫院內 上野和夫
櫻井町一 竹葉醫院
明治町二丁目（電三七八番） 內科小兒科 中島醫院
大和町三丁目（電話一〇三三番） 小兒科專門 中谷醫院
明治町二丁目（電一五四一番） 耳鼻咽喉科 中村醫院
永樂一丁目（電話六一三番） 內科小兒科 村上病院

村上病院內 松下三雄
南米倉町（電話二六一三番） 內田醫院
黄金町三丁目（電話一八九〇） 宇野天壽堂醫院
太平通一丁目（電一一一二番） 山口醫院
吉野町一丁目（電一八九七番） 矢崎醫院
本町二丁目（電二八八〇番） 山田醫院
本町二丁目（電二二七七） 耳鼻咽喉科 山田醫院
本町四丁目（電話七五五番） 松本診療院
本町五丁目（電話二〇一二番） 內科小兒科 大和醫院
長谷川町（電話六七五番） 松岡醫院
旭町一丁目 牧醫院
北米倉町（電話四八一番） 京城婦人病院
本町二丁目（電話二六二三番） 京城醫院
明治町二丁目（電話二六二三番） 內科小兒科 芙蓉醫院
旭町二丁目 古城梅溪
本町一丁目（電六九二番） 內科小兒科 小林醫院
明治町一丁目（電二〇四四番） 江頭眼科醫院
長谷川町（電話七三七番） 安東醫院
西大門外（電一八八六番） 西大門醫院
本町三丁目（電話四一九番） 皮膚科花柳病 安部醫院
南大門通五丁目（電一二五二） 內科小兒科 雨森醫院
本町五丁目（電一三二二番） 內科小兒科婦人病 淺川醫院
明治町一丁目（電話二四番） 贊化病院
贊化醫院內 上野亮藏
明治町二丁目（電一七三番） 皮膚科花柳病 佐藤病院
明治町一丁目（電一六五九番） 佐々木胃腸醫院
永樂町二丁目（電一六〇〇番） 酒井婦人病院
永樂町二丁目（電一四七五番） 宮地醫院
旭町一丁目（電話一七三六番） 外科內科皮膚花柳病 島崎醫院
南大門農銀裏（電話二〇六五） 司生堂醫院
明治町二丁目 久枝肛門病院
旭町二丁目（電話二四九八番） 外科皮膚科 瀨戶醫院
本町一丁目（電一二三〇番） 耳鼻咽喉科 杉本醫院

海邊の松　鈴木松年畫伯試筆

午(馬)に因める藥品（上）

總督府醫院藥劑課長 藥學士 吉木彌三

遠く神代の昔より數十年前に至る三十年の間世界人類の保命回生は總りて一に草根木皮に在りたり殊に東洋諸國に於ては古昔より漢方藥は最も權威ありたるものにして朝鮮に在りては今も尚相當の名聲を保しつゝあるなり而して其等藥の稱多く十干十二支中の午二支卽ち動物名に因めるもの多數なるは何等かの因緣あるべしと思考す

今大正七年は戊午の歳にして淺薄ながら午(馬)に因めるもの多數なれども其主なるものを擧れば次の如し

△馬勃　馬勃とは夏季の半に山林陰地に生ずるホコリダケと稱する菌類の一種にして初生物は白色球狀をなし馬頭の如くなれども長ずるに及んで人頭大となり外面暗褐色を呈し質は輕く綿樣にして中に多量の胞子を含有す故に其熟したるものに觸るゝ時は塵煙を發す此藥品は主として止血藥に用ひらる

△馬兜鈴　本品は馬兜鈴科に屬するウマノスゞクサと稱する植物の子實なり、ウマノスゞクサは原野路傍に生ずる多年生の蔓草にして春季宿根より萌を生じ樹木に纏絡して上る葉は緊質の葉に似て厚く背面は白色を呈し毛茸あり莖葉共に一種の惡臭を有す夏季葉腋に紫色の不整筒狀花を開き後結實し秋季に至りて枯死す馬兜鈴の形態は褐色卵圓形の實にして長さ一寸闊さ六七分許り薄皮を破り中に白色扁平の種子數多ありて橄欖に類似す陰曆七八月頃實を採り日乾し皮膜を去り其子を採つて焙り用ゆ本品は鎭咳藥として用ゆ

△馬鞭草　本品は馬鞭草科に屬するくまつゞらと稱する植物の莖葉なり此くまつゞらは原野に自生し又觀賞用として栽培する多年生草にして春季宿根より苗を生ず高さ二三尺葉は菊の葉に類似し對生す夏季梢上に穗狀の小花を開く其色は淡紫色を呈す莖は方形をなす陰曆六月頃葉及び穗を共に取り日干し細剉し專ら淸血通經藥として用ゆ

△馬醉木　此品は石南科に屬するあせびと稱する植物の葉なりあせびは山野に自生する常綠樹にして又觀賞用として庭園に培栽す高さ通常五六尺なれども深山に生ずるものは二丈に達することあり葉は革質にして長卵圓形をなし互生す春季枝梢に三寸許りの穗を垂れ白色壺狀の小花を簇生し開花後小なる實を結ぶ本植物は有毒なるゆへ注意を要す本品は民間に殺虫劑として使用せらる

京城謠曲界の昨今

謠を知らねば紳士の耻辱と思ふ程の流行　大小天狗一千人

近年內地上流中流の紳士淑女間に猛烈の勢を以て流行して來たのは謠曲で大正の今日謠の一番も知らぬ者はお話しにならぬ沒趣味漢とされて來た、畏くも九重雲深き

宮中の御大典にも

畏くも能舞殿を設けられて數番の能樂の御催があり、本年は又華族會館の能樂殿に臨幸あらせらるゝのみならず、帝室平素の御興向にも皇后陛下の時として寶生流の御謠あるやにも承はる、伏見宮、華頂宮、北白川宮、九條、二條、蜂須賀、伊達、伊藤、大谷、大隈、小笠原其他のやんごとなき方々や華冑界の人々を始め近衞、古市、高田、天野、中野、原、長岡、宮內等の紳士博士將軍連に至る迄で風靡せぬ隈もない、甚しきは高等學校大學其他官私立學校の學生迄修學の餘暇研磨おさ／＼怠りなきも少くはない、首府東京に於ける觀世、寶生、喜多、金剛、金春五流の師範役は雜つと三百餘名もあつて素人師匠でも師匠まで數へたら七八百にも達するであらう、而して之れに就いて習つてる

門人は五六千人の

多數に上るべく京阪其他各縣各地の同好者は無慮二十萬と註せられる、臺灣、朝鮮、滿洲、樺太の各殖民地も仲々の勢で流行を追ひ今や謠曲全盛の時代に入つた觀がある、それは謠曲其のものが古典的な武士的な生粹の日本趣味である上に家庭にも社交にも最も能く適合し幾人でも連吟し同吟して共樂し得る特長があるからである、謠曲は日本の美術宗教文學藝術人情風俗の結晶物で之を知らぬ者は日本の國粹と眞價を了解せぬ人である、閑話休題今少しく京城に於ける謠曲界の現狀如何、趨勢如何を論評し斯道研鑽の一助に供し度いと思ふ先づ

觀世流で家元から

派遣された師範役は常盤町の羽山尙德氏、觀世支部の野尻汝吉氏、松風會の山中梅塘氏で何れも三十乃至五十の門弟を率ひ、松節會の中川氏、春風會の田沼氏も亦た約二三十の生徒を擁して居る、柴田氏や千勝氏の敎へて居た門生も六七十の多きを算し其素人師匠に內習の人もあつて同流者の總計は決して四百を下らぬであらう、羽山氏は現在觀世の師範役では最年長の最古參で直接故淸廉先生に師事し其蘊奥を極めて來た而して篤學恭謙師匠直傳の型を崩さず謠に力あるは師の右に出づるはあるまい、野尻氏は年少より斯道を習得した人で謠もよく節もよく三番物は其の得意とする處らしい、山中氏は長年小澤良輔氏に就いた人だが暫らく

中絶して居た相で

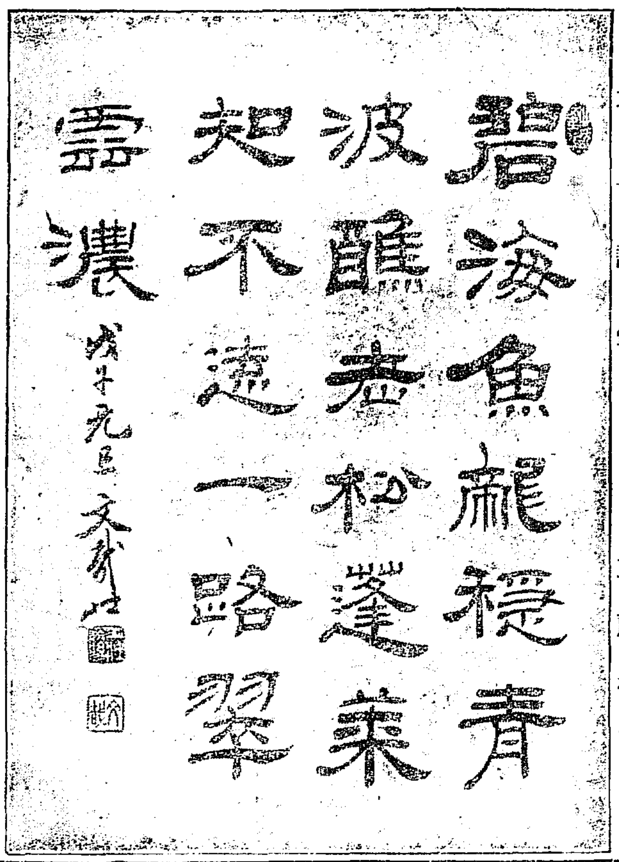
羅致は聊か貧弱であるが節には仲々好い處がある、羽山氏の素謠專門なるに引替へ野尻氏と山中氏は仕舞も出來るし餘技ではあるが山中氏は茶や生花にも堪能な相である、中川氏は京城觀世流の草別けで、古ひ生徒で、師の門を潜入らぬ者はない位ゐ、只だ家元の稽古でない爲めに、節廻はしに變つた處はあるが親切熱心の點は誠に推賞に値ひする、門生中で錚々の聞ゆるは松風會の末松、岩崎、清水、佐山、金田氏等支部の山口、中島、大田黑、常盤會の野田、此經、市岡等の面々であるが尤も評判の高いのは金東完氏で目下朝鮮第一を以て任じて居る、何に朝鮮人に謠の眞髓が判かる者かと貶なす人も多いが月謝の廉い爲めか習つて居る向もある

自稱名人の中には

安住、三品、井上、森、安藤、佐々木等の人々もあるが隱れた達人には鈴木、小原南、長官の如き人もある、寶生流の方には何うしたものか家元派遣の師匠はないが楠木喬、山田忠藏、野中元次郎、岩橋淳、渡邊成三の諸先生何れも二三十から四五十の門弟を控へ割據して居る、同流の美點は各會の團結が至極圓滿で京城寶生會の名の下に毎月連合の月次會をやつて居て仲々隆盛な一事である、松寺竹雄氏が名譽會長、古城菅堂氏が會長とかで婦人連迄謠に仕舞に熱心勉强を續けて居る、中で最も錚々の聞えあるは元老株で岡本桂次郎安達丈次郎等の諸氏素謠は固より仕舞もやれば鼓もやる、之に次では山崎駿二、藤田安之進、島田志良等仲々多士濟々で

新進の人にも有望

の者が少くない夫れから喜多派の方は京城の草別けで明治四十四年來開拓して來た高野濱吉氏と昨年家元から派遣された梅津氏のみであるが兩者とも三四十の門生を有し龍虎對抗の姿である高野氏は十二三歳頃から專心斯道を研究し家元の代稽古もして居て京城に派遣されたのであるが何にか感情の行違ひから今日は獨立で門戶を張つて居る、此流にも諸家多田と言ふ樣な謠ひ手を有して居つたが皆去つて今では新らしい人が多い、梅津氏は尙年少の人ではあるが家元から來た程で藝もよし相當人氣を收めて居る、之を要するに今日三流の門生は少くも七八百乃至一千人を算すべく各流各會各々隆盛の狀況に在るのは斯道の爲め誠に慶賀の至りである、只だ此上は同黨異伐の弊を去り互ひに尊重し、敬愛して一大俱樂部でも新設し相謠ひ相樂むに至らん事を切望する（曲亭生）



元旦試筆　工藤壯平氏

謹賀新年 全南木浦府 近江屋旅舘 電話六六番 三吉野旅舘 電話一三番 柴田屋旅舘 電話二七番 木浦ホテル 電話三七番

謹賀新年 東洋拓殖株式會社 沙里院出張所

謹賀新年 總督府中央試驗所 總督府醫院各道慈惠醫院 御用達 醫療用藥品 化學用藥品 醫療用器械 工業用藥品 島久商店 京城明治町二丁目 電話一四四番 振替六四七七番

謹賀新年 柳屋旅舘 平壤

謹賀新年 大田學校組合 大田面事務所 內藤茂雄 貝定次郎 高田卯吉 森川秀喜 村上專之助

謹賀新年 安東縣 山岡梅之進

謹賀新年 陸軍諸官衙御用達 兵用內外圖書各種印刷各出版物寫眞帖販賣帳簿類和洋製本文房具 井上欣治商店 京城漢江通り八番地 電話五三三番

謹賀新年 米雜穀 肥料 貿易商 中島竹次郎 京城南大門驛前

謹賀新年 洋燈各種。鍍道用硝子。電氣笠瓦斯 セイド。理化學用硝子。標本藥瓶子。各色硝子。食器類一式 小野玻璃器製造所 京城林町一六二番地（電二七九一番） 黃金町四丁目交番所北へ入る 小野玻璃器販賣部 京城鐘路通二丁目角（電二八七九番）

謹賀新年 京城蓬萊町 三巴酒造株式會社 電話長一〇六七番 振替京城六一八番

謹賀新年 拂込資本金拾萬圓 金銀交換外國貨幣及び有價證券賣買並に其仲立業 長春錢鈔株式會社 長春東七區四十二號地 電話四一一番 露國貨幣現物及び先物取引に關する業務一切御入用向には御一報次第御送附可申候

謹賀新年 室內裝飾品洋家具類並 各種織物敷物金庫消火器 京城本町二丁目 橫山隆一支店 電話長一六七番 本店 神戶市元町一丁目三三 電話長本局八〇四〇 支店 臺北文武街一丁目六 電話一七二

謹賀新年 蠶繭、生絲、屑物、五倍子 河原繭糸店 龍山漢江通八番地 長電話四二一番 電略（カ）又（カワ）

謹賀新年 全南木浦府 精米業 貿易商 福田有造商店 電話一九番

謹賀新年 總督府御用表裝外諸材料販賣 石川辰次郎 京城永樂町二丁目 電話一一八七番

謹賀新年 活版印刷 石版印刷 帳簿製造 京城旭町二丁目 犬養帳簿製造所 犬養藤四郎 電話二七九番 振替京城一五九六

謹賀新年 京城明治町二丁目 表具師 木村修竹堂 電話二九五五番

謹賀新年 京城本町二丁目 會席御料理 はつね 長電話一七六番

賀正 京城本町二丁目 佐藤牧本店 電話二九、二四八番 龍山漢江通り 佐藤牧支店 電話四二九番 龍山軍構內 佐藤牧用達部 電話五二九番

謹賀新年 京城旭町二丁目 會席御料理 いそべ 電話一一〇〇番

謹賀新年 安田黑鉛鑛業所 朝鮮新義州

謹賀新年 東洋コンプレスソル株式會社

謹賀新年 松本黑鉛製鍊所 朝鮮新義州

謹賀新年 龍二浦料理屋組合
翠松券大富玉三鶴長泉一山み明末花日旭三橘金
月 番 士 七 七
支 松 の 十 三
正 川 崎 力陽ゆ の向 榮
店月月樓家樓樓屋樓樓樓樓き月廣家屋亭樓屋樓

謹賀新年 忠北忠州 米穀商 高村甚一 達川 高村農場

謹賀新年 和洋家具室內裝飾器 諸官廳御用 增田本店 店主 增田三穗 京城本町二丁目 電話長一〇九番 振替京城七六番

謹賀新年 銃砲火藥獵具 增戶銃砲店 京城本町三丁目 電話二〇九二番

謹賀新年 日本生命保險株式會社出張所 大庭讓太郎 京城黃金町廿四番地 電話五八〇〇番 四二〇〇番

謹賀新年 京城本町二丁目 久保田陶器店 店主 久保田虎介 電話一五五三番 振替一六五五番

謹賀新年 京城南米倉町二百五番地 三好和三郎

謹賀新年 土突荃製作附屬品直輸入販賣 藤本岩次郎 京城大和町一ノ四一

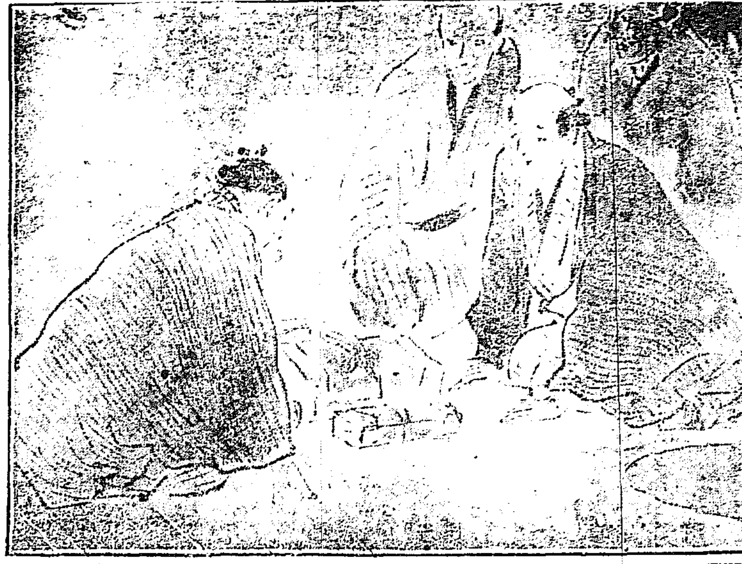
謹賀新年 和洋紙 諸帳簿 文房具 諸印刷 京城本町一丁目 北內商店 同活版印刷部 電話一五二三番 振替京城一五九二番

謹賀新年 日雨傘各種印入番傘提灯新調張替折箱各種 石野商店 京城永樂町二丁目 電話二五〇一番

左甚五郎

第百二十九席

桃川如燕口演 浪上義三郎速記



栗原遠江の弟子の湛五郎は甚五郎の來たことを聞いて早速に栗原方へ參りました 湛「エ、棟梁今日は」栗「ヤア湛か」湛「承はりましたら江戸から大工が乘込んで來るそうですが、此方へ來ましたか」栗「ウム今甚五郎といふ奴が顔出しをしてたつた今歸つたばかりだ」湛「然うでございますか、是から棟梁は柏屋へお出になるのですか、何んなら御一緒にお供をいたしませう」栗「馬鹿を云へ、先方は江戸から來たんだ、土地の大工に顔出しをするのは當然だ、此方から態々彼奴の處へ運ぶ足は無ね」湛「でございますが棟梁、先方から土產物を持つて近付きに來たら猶更知らん顔をしても居られますめね」栗「馬鹿云ふな、構ふことがあるものか、俺はもう面倒臭ねことは嫌ねた、打捨て置け〳〵」湛「思召が無びりや強てお出なさるにも及ばないが、然し棟梁今度は些と仕事が骨が折れますな」栗「何で」湛「何んでつたつて、棟梁はお聞きになりませんか、上野の鐘樓堂へ甚五郎が龍を彫つて當時まア日本で何人といふ、宮本町の喜三郎、又佐野の仁兵衛、大阪の吉兵衛なぞといふ人が甚五郎の爲に嬲られてしまつた、却々彫物にかゝつては巧い奴だそうで」栗「何だと、何を云つて居やアがるんだとんでも無ね野郎に人に客をつけやアがる、そんなに甚五郎を大した男と思ふなら是から行て甚五郎の弟子になれ、箆棒め、甚五郎が甚六だつてそんなことに驚くんぢやア無ね、年は老つても栗原遠江、腕にかけたら甚五郎が來たつてビクともするんぢやアねゑや、面白くも無ねことを云つて居やアがる」湛「イヤ棟梁、然う話しを聞き違へちやア大きに俺が申し譯が無ね、何も棟梁のことをくさすの、先方を褒めて親方の勇氣を挫くなんてそんな譯ぢやア無ね只お心得の爲に申し上げたのがお氣に障つたら何うか勘辨しておくんなせゑ、惡い了見で申し上げたぢやアございません又上ります」と其儘表へ飛出して待へた、親方もあんな判らねゑ人間じやアなかつたが、何うも年を老つたので二三年前とは大きに調子が變つて來た、先方から態々土產物を持つて、只今御當地へ參りました、何分宜しく引廻して下さいと、頭を低げて來たら此方も相當の挨拶をして遣らなくツちやア浮世の義理といふものが濟ねゑ、何を云つたつて棟梁は背きツとは無ね、宜し、俺が一ツ顔出しをして來やうと思ひました故、弟子に吩咐けまして日光の名產を種々買集めまして是を持つて大門前の柏屋へ來て見ると、大勢の職人衆が集つて芽出度といふので、飲めよ唄へと云ふ酒宴最中 湛「御免なさいまし、湛五郎でございますが……」と申し入れると、江戸の大工の内で遠江は兎に角、湛五郎を知つて居る人が幾人も居りますから『オー湛棟梁が來た、さア此方へお通し申すが宜い』と云ふ、案内に從いて座敷へ通つて見ると、正面に居りました甚五郎、默て居りました[illegible]座を直し 甚「是は能くお出下すつた[illegible]て御話しは承つた湛棟梁、俺は甚五郎で、今度公儀から吩咐つて拙ろなく御當地へ參りました者、不案内のことで宜しく何か引廻しておくんない」と詞に柔順い氣性だから湛五郎も心中に大きに感心をして 湛「俺も先刻は結構なお土產を頂きまして親方の遠江も大層喜んで早速お禮として出向くのでございますが、何を云ふにも年を老つて近來少し持病が起つて出癖ますから失禮だが湛汝が代りに一ツ行つて江戸の棟梁に能くお詫をしてくれろと云ふことで遠江の名代に出ました」と叮嚀に挨拶をいたしました

新刊紹介

▲孔雀草（佐藤紅綠作、淑女、女優、力士、令嬢、學生等を並し來りて其の紛擾せる浪漫な戀愛に描寫し讀者に何ものかを寄與せんとする所最近文壇の傑作たりとの評あり 一圓三十錢東京日本橋本石町三星堂）

▲中外新論（新年號大號） 口繪三枚は一寸沙漠の寫眞を挿しきものにして内容豐富に洗練されたる確かに群雜誌の巨星として推奨するに足れり（五十五錢東京芝愛宕下町二二社）

一月五日 土曜 舊十一月廿二日 壬子 本命四綠 [illegible]

一月六日 九星 舊十一月廿三日 癸丑 本命五黃 八方除 先負

[illegible]

謹賀新年 群山府 赤松醬油釀造所 赤松繁夫 長電話五〇番

謹賀新年 安東特許請器械及地金商 釜山府本町一丁目 中島竹次郎 電話長九九〇番 電略(ナカ)又ハ(ナ)

謹賀新年 朝鮮群山府五條通 濱谷旅館 電話二三九番

謹賀新年 朝鮮群山旭町 若富旅館 電話二四四番

謹賀新年 忠南江景 江景病院 電話四〇番 大阪醫學士院長 鈴木茂三郎 忠南江景 湖南病院 電話長五〇番

賀正 院主 醫學士 郭田一 愛知 産科 伊藤吉 産婆 林[illegible]

謹賀新年 晉州自動車組合 晴雨に不拘ず馬晉間を定刻毎日二回發著

謹賀新年 晉州旭町 木炭商 ㊇ 旭商會 電話四八番 西輸砂糖 商 鹽 商店

謹賀新年 從七位前判事 辯護士 永濱三郎 事務所慶南晉州大安洞

賀正 朝鮮群山府本町 米穀商 松場延太郎 電話長四七番 全北金堤郡萬頃面夢山里 支店 精米業 松場密三郎

謹賀新年 從七位勳七等 辯護士 石川銀作 事務所 慶南晉州

賀正 弘益殖産株式會社 烏致院農場 電話烏致院六番 振替口座京城一〇番

賀正 大田理髪業組合 [illegible]

謹賀新年 牛骨牛脂化製膠製造業 營業所 工場 田中竹次郎 大田春日町一丁目 大田大南面連孝里

謹賀新年 京釜線永同驛前 赤松旅館

京釜線永同 公醫 井上省三

永同驛長 鶴丸市藏

忠南公州 金甲淳 自働車部

朝鮮運輸株式會社加盟店 鳥致院 忠北運送店 松賀屋

鳥致院 穀物荷受 米穀商 岡本喜代二 電話七番

鳥致院 精米商 公益組合

大田本町二丁目 米穀商 若林茂 電話四六番

大田春日町 赤星洋服店

大田本町一丁目 生魚商 岡本商店 電話一二三番

大田春日町 古物商 三八商店

京城府漢江通七番地 田川常治郎 電話六二八番

京城府元町一丁目 畠山酒造場 電話一五四番

京城本町二丁目 佐伯旅館 電話七三六番

京城黄金町三丁目 二宮商店 電話一六九九番

群山九條通 中長谷川彌助 電話三九番

群山大和町 戸塚病院 電話一二三番

沃溝郡廳 酒勾大 中島隆

群山 桑島兼三郎

群山郡 楠信一

群山港明治町 桐原彦吉

各國自轉車並ニ附屬品銃砲 自轉車修繕 京城旭町一丁目 瀧川次郎 電話二八五三番

全北成悅 入江喜代藏

群山 渡邊仙藏

群山 田中時計店

謹賀新年 公證人 山邊勇輔 京城府永樂町一丁目 電話二八四〇番

謹賀新年 京城本町二丁目十一番地 賞業商 伊藤東一郎 電話九九四 電略イト

謹賀新年 京城永樂町一丁目 關繁太郎 電話四七六番

謹賀新年 元山春日町 澤井庫次郎 電話一三三番

謹賀新年 京畿道始興郡永登浦面長 大塚宗三郎 電話二十番

謹賀新年 京城本町二丁目 旭旅館 長電話六四五番

謹賀新年 活動寫眞映寫及び幾掛其他一切の御需用に應ず 京城本町二丁目八十八番地 日本活動寫眞株式會社 京城出張所 電話二九三

謹賀新年 元山本町 藤本自轉車店 電話四〇七番

謹賀新年 東亞煙草株式會社 平壤分工場

謹賀新年 耐火煉瓦 赤煉瓦 製造販賣 合資會社 京谷商店 平壤

謹賀新年 大橋恒藏 平壤

謹賀新年 織物産地直輸入 竹中呉服店 長電話四六五番 振替口座京城二二三番 ▲相不變御愛顧御引立ノ程願上候

謹賀新年 平壤電氣株式會社

謹賀新年 朝鮮新義州 綠屋旅館

謹賀新年 平壤券番組合 大同館 壽 喜樂 七星館

謹賀新年 大田郡廳 金昌洙 田中祖 關口正三郎 新宅源三郎

謹賀新年 土木請負 須々木俊次郎 大田本町二丁目

謹賀新年 永同郡廳 金鴻圭 平木勘太郎 山口孝一

謹賀新年 内國通運株式會社 大田取引店 自動車部

謹賀新年 大田本町二丁目 和智醫院 和智寧雄 電話三二一番

謹賀新年 醬油味噌釀造販賣 大田本町二丁目 辻謹之助 電話長五八番

謹賀新年 大田本町一丁目 大田鐵道病院 佐藤惣太郎 電話長四九番

謹賀新年 大田本町二丁目 石材請負 堀江和作 電話長四〇番

謹賀新年 木浦水產株式會社 附屬長城寒天製造所 電話三三四番

謹賀新年 全南木浦 海陸物產商 森酒井 電話三三九番

謹賀新年 ㊂ 朝鮮木浦 宮道呉服店 電話三三八番 振京城一七〇八

謹賀新年 全南木浦 貿易商 木村商店 電話二〇番

謹賀新年 全南木浦 醬油醸造 味噌販賣 白山釀造場 電話二〇四番

謹賀新年 全南木浦府 海陸物產 貿易商 桂山淺立[illegible] 電話三四番

謹賀新年 全南木浦府 ㊤ 土田呉服店 電話三二番

謹賀新年 全南木浦府 御料理 東雲樓 電話九番

謹賀新年 全羅南道 醬油味噌 釀造販賣元 飯田商店 電話十五番

謹賀新年 木浦 印刷所 木浦本店 電話三〇九番 光山 印刷所 光州支店 電話五四番

謹賀新年 天 堀田味噌製造所 京城府元町一丁目 電話一五八番

謹賀新年 全羅南道光州 東雲旅館 電話二十九番

謹賀新年 大田公立普通學校長 中村藤太郎 上北國長

謹賀新年 京釜線鳥致院 吉原農場 吉原鑛業所

謹賀新年 大田恩賜産業授産所 押切萬作 堀江清

謹賀新年 漢湖農工銀行 大田支店 瀧谷太吉

謹賀新年 白石農場 大田市外 白石鐵二郎 電話長二五番

賀正 日本生命保險株式會社忠淸代理店 徴兵保險株式會社大田代理店 共同火災保險株式會社大田代理店 日清生命保險株式會社大田代理店 大田信託社 畠山源一郎 電話長三一番

謹賀新年 永同本町 御旅館並ニ辨當仕出 伊務屋旅館 清森彌三郎

謹賀新年 大田本町一丁目 岸辰一

謹賀新年 大田本町二丁目 繩叺 石油 砂糖 麥粉 簑浦商店 電話長一五三番 振京城三九三

謹賀新年 大田本町二丁目 綿絲布 煙草 砂糖 辻支店 西村哲次郎 電話長一四六番

謹賀新年 大田本町一丁目 穀物商 生野商店 電話一九番 振京城一八八三

謹賀新年 大田本町一丁目 諸官衙御用 万堂印房 振替京城九四九番

謹賀新年 大田座主 倶樂部 神田常吉 電話一三三番

謹賀新年 大田本町二丁目 京平 南部商店 電話四五番 電略『ナ』